WASON
HQ
1104
J74+

Jun. 1893
30.347

明治廿六年六月二十四日發兌

女學雜誌

第三百四十七號

女學雜誌社

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

本號目錄

社說

世界大博覽會と十九世紀の婦人（第一、婦人館。第二、婦人會。第三、四百年前來万國婦人の進歩。第四、五、六、各種の會合。第七、結論）。（すべて六頁の細密なる長說話）

書架

下田歌子家政學○末松謙澄氏修身女訓○簡易園藝法

家政

小言のいひ樣（しづ子）

理學

つゆ（けい子）

小說

春風裡（トオストイ伯著、不知庵主人、譯）

兒籃

三階にお住ひなされまし（しづ子）

摘要

泥棒に金持なし○相撲幕の内給金表

閑書

夫婦別居の事に付て（本鄉の一女子）

史傳

雲松庵村田多年女史○西周、福羽美靜兩氏書狀

通信

宮城縣通信○大阪通信○三重縣通信

女報

數十件

前號目錄

社說

救療會

兒籃

鼻で鯛を釣つた話（實事）しづ子

雜錄

吾妻岳破裂の話（馨子）

小說

春風裡（トオストイ伯、作。不知庵主人、譯）

家政

子供に付て（しづ子）○筍の酢漬製法○甘醬の製法○蓮根を砂糖漬に貯ふる法○食物養分比較表○田家のこよみ○園藝法

隨感

漫に白雲をながむるの翫○優しき覺悟○勤儉の健やかなるもの○獨默のたのしみ○淚の人

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治二十六年六月廿四日發
第三百四十七號

時事

世界大博覽會と十九世紀の婦人

世界文學の光たり、佛國男兒の鹽たる、ビクトル、ユーゴをして、「此世紀は婦人の世紀なり」と云はしめたる十九世紀。並びに、其領地内に常夜なく、甞て悉とく光を沒したることあらざる英國の女王ビクトリアと共に、全世界に通ずる大會合を引率し、万國を一つに貫ぬきたる共和國を初めて建設したる、世界婦人禁酒會の長フランセス、ウイラードをして、「此世紀に名高き發明多し、されど最とも大ひなる發明は、婦人が其女性を發見せしことにあり」と言はしめたる十九世紀は、正にのこす七年の末期に至り、蛇頭龍尾を揮つて、今や氣焔万丈の名殘をとゞめ、更に一層大の元氣をもて、次なる世紀に入らんとはする也。その事を何ぞと問ふ人もあるまじ。目下五大洲に其聞え轟ろき渡る、世界コロムブス大博覽會に於ての十九世紀婦人が、大運動、即はち是れなり。

初め、米國合衆國の國會が、アメリカ發見の四百年紀を念ぜん爲めなる大博覽會を開きて、新世界現時の進步の跡形を一堂に羅列せしめんことを議決する時、之に欠く可らざる一部分として、婦人事務委員會なるもの丶組織を指定せしこと、頗ぶる當を得たるの處置なりとす。新世界が、万國に誇るべき大進步の一つは、正さに婦人女性の進步にてあること、天日の煌たるが如く、明らかなれば也。

斯して、婦人事務委員會(The Board of Lady Managers)の長に、ポツター、パルマー夫人、同副會長に、バージニア、メレダス夫人撰定せられ、一切の經綸、万般の事務、着々として、此等軟性纖手の指の先にて辨ぜられたり。

第一　婦人館

先づ、婦人部の爲めにとて、特に設けられたる建築を見るに。シカゴ博覽會場内の一方、ジヤックソン公園に、堂々、「婦人館」と稱する一大樓廈巍然として現はれたり。建築の意匠

伊利太亞復古派の趣きを凝らし、躰裁美くしく鮮やかにして、規模廣きがうちに好く調のひ、屋の上に、花園あり、赤き花、青き木の葉茂り、所々に美なる彫像立ちて風韻を添ゆ。左れば、巨大宏壯を旨として、稍や風流を欠きたる、全躰の建物に厭き、旅につかれて、一溪の谷の水を慕ふ心地のする看客に取りては、廻つて此の「婦人館」前に出づる時、爽然として、生氣一新の思ひありとぞ。

此の建築は、ボストン府の一令嬢、ミス、ソフヒア、ヘーデン女が設計により、內部の裝飾は、カンデース、ウイーラー夫人の監督によりて、調のひたり。內部の裝飾の中、ことに人目を惹くは、畫像をかゝぐる圓廣堂、並びに、左右二側の入口にありとす。圓廣堂の畫樓は、象牙色の純白なる石膏をもて塗りたる上に、純金にて、細工したり。樓の兩端に、二つの大ひなる畫ありて、此間を横につなぎて伊太利亞風の飾り帶かゝり、帶の下に數多の額並列して、額ごとに、歷史上、著名なる婦人の名、金泥もて記されたり。

館內にて、最とも秀でたるは、書籍室なり。あらゆる時代、あらゆる國々にて成りたる、婦人が文學美術上の成品、廣ろき室內一面に集められたり。裝飾は、ベニス風にて、天井、書架の趣き、至つて古風なり。文學、科學、小說、歷史の書並びに繪畫、彫刻、音樂、戯曲の美術品と分ちたる五つの部門、みなそれ〲に至れり、盡せり。

畫樓の東方には、大ひなる客間あり。一家の客間すら婦人の手によりて初めて美を呈するとを知らば、世界人に見せんとの此客間の如何に美くしきかは、言ふをもて反つて愚かなりとす。畫樓の北方には、講堂あり。茲に、時を定めて、万國著名の婦人の演說あらんとす。又、畫樓の南方には、各國の婦人が、敎育、慈善等の爲に設けたる、もろ〲の婦人會の本陣を置え、茲に、婦人間の新思想、新事業の蹤跡を實地に示さんとす。

初め、パルマー夫人會長より、万國に書を送り、各國夫々に婦人會を設けて、此の婦人部に聯合せられんとを促がしたるに、各國みな響の如く此聲に應じ、今や强大なる婦人連合の會、万國を貫ぬき、シカゴを中心として輻輳したり。我國に於ても、皇后陛下の御命により、毛利侯爵夫人會長となりて、日本婦人會なるもの出で來、また之に聯合したり。此會は、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

世界婦人禁酒會に劣らざる一大會合として、世界著名の婦人を結合せしめたると、他に類なし。此連合は、單に博覽會の爲のみならず、必らずや久しきにつゞきて、万國女性共同の大基礎となるべしとは、心ある人の望み且つ信ずる所なりとす。

第二　婦人會

大博覽會附屬館なるものあり。湖水の前面なる美術館を之に宛つ。館の中央に、二つの大講堂あり、一堂に聽衆三千人を容るべし、外に拾箇の小室あり、室ごとに、二百人乃至八百人を容るゝに足る。茲を以て、博覽會中の演說用に當てんとする也。

此の附屬館の婦人部なるものは、パルマー夫人亦た部長たり、別にチヤールス、ヘンロチン夫人、副部長たり。玆に、婦人の爲めに會合を引つゞき催ふさんとす。

第三　四百年來万國婦人の進步

第一回は、各國代表の婦人の爲の會合にして、五月十五日に催ふし、一千四百九十二年、即はち亞米利加が大陸發見以來の婦人の進步の狀況を表現せんとする也。其の說明は九ッに分ち、敎育、職業、美術文學、哲學、慈善、道德及社會改良、宗敎、法律、政府の各部となす。而して、此報告は、后に一大冊子となりて、世に公刊せらるべし。不幸にして、代表者を送らざる國に於ては、知名の人、文書にて其報告を寄すべし。我國にては、華族女學校敎授津田むめ子女史、之を擔當せられたれば、則ち亦た其中に日本女子四百年前來進步の狀况の一編加へらるべし。斯て、此書は、あらゆる文明國婦人の進步を示し、紙上の大博覽として永久に、世に遺らん。扨て、此の婦人代表者の會合に於ては、中央の二大講堂にて、朝夕集會を開らく。こゝに朗讀せらるべき（いまはすでに朗讀せられたる）論文中、左の題號のもの、尤とも目立つなり、

法律上社會上に於ける婦女子の進化○女子の事務的技倆○經濟界に於ける一新動力たる女性○劇場に於ける女子○說敎壇に於ける女子○衣服の道德○會計方としての女性○市政に於ける女子○政治上、女子の將來○平和事業に對する女子の戰○社會上の引率者としての女子○ホームと相關せる貿易及び職業○

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

之に代表者を送る、國々、會々、引も切らず。中にて、尤とも、注目せらるゝは、

イサベラ、ボショット夫人（婦人万國會議の會計）
フレデリックソン夫人（デュマーク）
女醫博士マリエ、ポプリン（ベルジウム）
ギウベルナチス伯爵夫人（伊太利）
シグノリッタ、セルベンテス（スペイン）

すべて此會合に代表者を送る婦人會は、六十三なり。斯て、五月二十一日の安息日を以て、此會合を終るに、此朝たの集りには、宣教師となりたる女牧師のみにて會を主どり、如何なる宗派を問はず、すでに女宣教師を置くことゝせる各派は、皆な、その女牧師を此主會者の中に加ふとなり。斯て、其夜は、大音樂會を催ふし、音樂の作曲も、奏手も、何ものも、すべて、女性の手のみにて辨ずるなり。

第四　女記者、女醫、禁酒慈善會の會合

右代表者の會合終る翌日、即はち五月二十二日よりは、婦人出版事業の爲の會合あり。こゝに某一夜を婦人新聞記者の爲め特更に開くことゝす。されど、別に亦、婦人新聞記者のみの特別の會合あり、そは三日につゞき、著名の女記者それ〴〵に演説せんとす。

女醫の爲の會合は、五月二十九日より開かる。禁酒事業の爲の會合は、六月五日より催さる。アイルランド大僧正と、言ふ迄もなく、フランセス、ウイラード此部を掌どる。

慈善の爲の會合は、六月十二日より十八日迄にて、極貧者の公共取扱方、不學者孤兒等の取扱方、罪惡の豫防及禁止方、罪人の刑罰及び改懲方等に分ちて、それ〴〵に會合せらる。

第五　音樂、文學、教育の會合

七月三日より開かるゝ、音樂の爲の會合には、世界に名高き婦人音樂者列席すること定まれり。其が中には、ピアルドー夫人、マーチエシ夫人、アルバニ、ガイ夫人等あり。又、七月十日よりの文學の爲の會合には、書籍館、歷史、記者、少年文學、考古學、博言學の六部に分ちあり、中にも、考古學會々長エリサベス、ソード夫人は、數多の有價なる論文を之が爲に集め、近時、考古學の研究に於ける婦人の大進歩を證せんとす。此時、熱心にて名高き、シユライマン夫人は、ミシネーを探險したる其良人の紀行を朗讀せんとす。又、七月

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

十七日より開くべき、敎育の爲の大會合には、一週間の初日を幼稚園敎育の事に用ひんとす。此に列席すべき万國の代表者の中には、日本委員として、廣島英和女學校々長ゲーンス女史臨席せんとす。其後は、手工及美術敎育、躰育、家政及職業敎育、聾盲啞敎育、女大學制度、實驗及び理論的女性心理學等の各部に分たれん、扨て七月最後の一週は、米國敎育會の監督の下に任せ、同會長敎授ウイリアム、ハリス氏主どる。

第六　其後其他の會合

八月に入りては、美術、政府、法律改正、政治學、科學、哲學、等の爲めに、各國特別の會合あり、此等皆な女の爲めに女が自からすると勿論なれども、中には、男子の方に委頼するもあるべしとぞ。九月一日より開く勞働者の爲の會合には現時の生存競爭場裏に於ける、女子小兒の現狀を明白に寫出せんとて、勞働社會に名ある婦人方の演説あるべし。

第七　宗敎の爲の會合

万國宗敎會議に於ける、婦人の勢力は、驚ろく可きものあらんとす。敎會と云ふものに於ける、婦人の實力は、此の際極めて明白とならんとす。ルーテルも親鸞も、宗敎に於る、女性の力を假らざるを得ず。ことし万國宗敎會議に於ける各員の演説は、恐らく此事實を一層明白にせんとす。

此會議の時に催ふすべき、女宣敎師の會合には、シャーロッテ、ヤング孃。エリサベス、チャールス夫人。レデー、ヘンレーソモルセット。イサベラ、アルデン夫人。フリーマン、パルマー夫人。パーリントン、ブース夫人。アメリア、クイントン孃。エドナ、ゲーン、プロクター孃等、それ〴〵に演説せんとす。此後に、各派の婦人會あり、新敎も、天主敎も、それ〴〵に婦人會合を催ふさんとす。

第八　家政の爲の會合

最後に、家政の爲の會合あり。敎育、勞働、農業の三に分ち別に家政の爲のみの會合一ツ、合せて四部に分つ。之に働らくべき專門の婦人多くある外に、敎授ルシー、サルモン女史は、經濟學實用に付きて。敎授カゼリン、コマン女史は、婢僕雇時限に於ける競爭の結果に付きて、マリヲン、タルボット孃は、家政學中の科學及衞生上の智識と云ふとに付きてアンナ、ハウ、パロス夫人並びにヘレン、ヒッチコック、パ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ツカス夫人は、無教育の母につきて、演説せらる可し。

凡そ此等の會合は、世界婦人の爲の眞の博覽會なるべし。婦人は四百年間に如何なる進歩を爲せしや。社會は、如何に其功績を歡受せしや。現時、婦人の勢力は何如に盛大なるや等の事實を、一堂の内、万衆の前に羅列して、其證しを示す。天下の偉觀、之よりも大ひなるものある可らず。われら、日東に居て、其經綸の大畧を想像するも、尚ほ、肉動き、心躍り、區々たる掛念一朝にして失せ、二十世紀に於ける婦人前途の希望、天國の如くに輝やくとを見る也、況んや、身直ちに、此大博覽會に臨みて、其證跡を目撃せんものゝ感歎それ幾そばくぞ。斯て、万國より集まりたる數十万の人、また万國に歸りて數百万の人に語り、茲に「婦人の勢力」なる一警語臆兆の口に上らんとす。此の時に於ては、會長夫人パルマー女史が、献礎式に際して演説せられたる如く

　コロムパス新世界を發見したる如く、コロムパス大博覽會は、婦人を發見せり、

とこそ言わめ、實に、此度の大博覽會が、婦人世界の勢力を張るとの洪大ならんは、かへすがへすも想像の外なるべし。

書架

○下田氏、家政學

家政學の書に良きものゝ乏しきは、吾、人ともに憾みとする所ろなるが、今ま、下田歌子女史が、四年間實地授業の末に成りたる此書の世に公けにせられたるは、祝すべきとになんある。

此書の特色は、著者が實地經驗の末に出でたる敎の、所々に見ゆるとなりとす。又、女服、交際なんどの事に至りては、此書の著者の如く、熟知の便利を有するもの少なければ、其所説も自から凡を超え、なみなみの人の敎と相違する所のもの多くあり。

劈頭第一に云く、家政の要は、秩序に在り、秩序こゝに立ちて、初めて百般の事物、其の正しき軌道を行かんと。實に、家政論の骨髓を得たり。金錢の貸借、の條に、「又た親戚等の爲に、不用意にして借財を負擔せしめらるゝとあり、これ本邦人の經濟に意を用ふる事踈かにして、且つ法律に不文なる

が故なり。此過ちは、殊に女子などにまゝあることにて、實に悲しむべき結果を見ると無にしもあらず」と(上の四)。又、盜難の心得の條に、「たとひ膂力の能く兇賊を拉ひしぐに足るものありとも、好みて敵對せしむ可らず、もし餘儀なき塲合に至りて彼等と相對せざる可らざることあらば、決して驚怖の色を示さず、沈着て能く事を所置せよ、畢竟彼等は、利慾の爲に良心を奪はれたるものなれば、利を得れば即はち止まん、彼、乃傷に及ぶは、己が慾を逹せん爲め、已むを得ざるに出づるなるべし」と。(下の四十三)。凡そ此等の說は、實驗者又は婦人の著書の外には見ること少なし。此等の敎つねに尋常の家政學書には欠けたり。

○末松氏、修身女訓

末松謙澄君、修身女訓の著あり。高等小學女生徒の用にとて、一年に一册を配し、惣べて四册なり。第一册より、第四册に至る、追々、事實及び文章を六かしくし、用意淺からず、每册それ〳〵趣きを異にすれども、大抵皆な孝に初まりて、悌愛、操節、慈仁、謹愼等の女德を、順次に說き敎ゆるが如し。例證は、十に八九、我國の事實にとり、支那の出來事只だ僅か計りを添たり、毫も、西國のに據らざりしは、時勢に應ぜんとの爲か。左れど、保守僻に偏せしとも見へざれば、先づは、大ひに不可とすべきものあらず。但し、人を猜む可らず、の條に(第一卷)

女は概むね心狹く淺はかにて富貴のものを見ては之を羨み衣裳美しきを見ては之を猜むもの多し

などは、依然として女大學の口調なり。又、四行を守るべしの條に(第三卷)

女に四行といふことあり、四行とは婦德、婦言、婦容、婦功なり、

は、女誡の說を其儘にして、只管ら舊に泥むの跡見ゆ。事例は、大抵世に聞えたるものなれども、松平定信と種姬、(卷の一)、毛利吉就夫人(同)、細井家の三婦人(卷の二)など、人の餘りに知らざるも、亦あり。

○簡易園藝法　　畜耡子

此書世間に其類乏しからざるも、博文館の出板にかゝれば、供給の普及と價の廉なるを悦ぶ。而して本編を通覽するに、園藝法を十一章に分ちて其大概を盡したるも、本編に就て細要は望むべからざるは、表題簡易の字を冠せられたればなり、編中園藝年中行事の如きは此道執心の者には便益なるべし。

隨感

○事業に熱する輩が人知らぬ衷情

世に名高き活潑々の女丈夫は、大かた、人知れぬ際に、情けの戰をたゝかひ、熱情凝つて思ひ遣る瀬なく、わざと一轉飜思して、扨ては、世を驚ろかすの事業に身を献げ、百年の命を之に托することはなれるなるべし。然るを何ものゝ冷々見ぞ、フランセス、ウイラードをもて、情け知らずとは呼ぶ。彼女、當年の意氣もし投合する所ろありせば、今は、無名の賢夫人となりて、三四の幼な見を、靜けきホームの內に養なひつゝあらんに、たゞ、之を幸とせんか、はた不幸とせんか彼女が意中の人遂に一生同伴の友とならず、彼女こゝに於てか其決意を强ふすることなりけりし。今や、彼女が禁酒事業に於ける、精氣壯んなる哉、丈夫亦た後へに瞠若たらずんばあらず、然りと雖ども、單に之をもて彼女が企業心より發すとなすことなかれ、彼女は、實に止むことを得ずして起てるなり止むことを得ざるとは、邦家百年の害毒を憂ふることと、戶々千万のホームの破るゝを痛むことと、同性の爲めに義俠敢爲の氣象を決行することゝの爲めに、止むを得ずして起てる外に、惟ふに更に一つの餘情なくんばあらず。實に、彼の女は、其の熱意を凝むるに足るの事業あらざれば、得て堪ゆること能はざるなるべし。人は、淺はかに之を許して、それを花々しき事業とも云はんか。されど彼の女が身を之れに許し、一生を之に托する所以のものは、左る冷やかなる味ひなき情思によりてにあらず、もし何人かありて彼女が心中の秘密を窺ひ見んに、彼女が心は之に一生を契り、此の聖なる事業をもて其終生の良人とこそ思ふなるべし、嗚呼、今の女丈夫の事業なるもの、大抵如此し、豈に啻だ、女丈夫のみならんや、世に聞えたる傑士が止むを得ずして起てる回天動地の大事業なるものも、亦大かたは此情理によりて出で來しなれ、左れば、四十、五十にして嫁せざる老嬢を目して、情け知ずなど誤まつて評することある勿れ、寡慾刻骨、冷々として只働らき、働らきて倒るゝの外に何の目的もなきが如き男兒を見て、之を無情なりと笑ふことなかれ、無情はこれ有情の極冷々はこれ熱意の絕頂たり。火は熱するとき赤く、更に熱して白きにあらずや。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家政

小言のいひ様

しづ子

大方はいわぬが増しです。併し自然悟る様にしむけられて、一向心づかぬたちも有升から、さういふ據ない時丈にとる方便として、さて其方法につき少し計り申して置度うム升。據なくいふ時の小言を、いふ人にも、いはれる人にも、利益のある樣にするには、餘計な的途のない、小言は、一切堅く禁じねばなりません。人が四度いふ小言の中、三度位は癇癪的で、人の粗忽とか、間の抜け鹽梅とか、何とかいふ過失に對して、イラ〳〵する自分の感觸を、幾分か外へ洩らす丈の用しか致しません。それ故、後進のものを教育的にあしらふ迄でなくとも、幾分か心を用ゐて人間同志の交際がし度とたしなむ人には、第一に、

靜かに思ふて、人の爲と判断のつかぬ小言は、剛鐵のかんぬきもて口外せしめざると、

といふ規則を守らねばなり升まい。第二に大切なのは、

小言をいはんとするものは、暫らく猶豫すべし

といふ規則です。粗そうをした、直ぐ其側から小言を言はるれば、假令御尤千万なお小言で、増して柔らかに仰つたとでも、小言をいはれた人の腑には落ず、爲にもならないとが厶升。下女のお末が、たつた今御秘藏の九谷のおどんぶりを破し升た。奥さまのお聲で「ソラ御覧、それだから、末にいつて置たらう、決して外の皿や何かと一處に、お盆へ載せないで、あれの出てゐる時は、それ丈一ツ、手にお持ちつて、モウ忘れておいでだもの。末は粗そうしてハツト膽を冷し、氣の轉動して居る處故、奥様の仰る事を分別して聞く暇はなく、「アー、又叱られた、チヨツ」、位の落になつてしまひ升。秤子が悪るければ、頬を膨らして、口答へもし兼ねません。心がワク〳〵して、氣が澤立つて居る眞最中へ疊み掛けて粗そうを責めたてるといふは、決して得策でムません。はしたなく、分別定まらず、物を知らぬ人ほどさういふ方法は不適當です。口ぎたなくクド〳〵いふ小言ほど、いふ人の品格を落し、いはれるものゝ心を僻めるものは有ません。さふいふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

ことを得意にする妻君こそ、俗に渡りものといふスレカラシの下婢を知らず〳〵製造するのです。

心ある妻君は、下婢を臺處道具の一ッとは見ず、僅かの給料の爲めに家政を分擔し、夜を日に繼いで働らく下役人と見るも、偶然我家に立寄つて、暫らく主從の關係を組んだ世の中の同類と見るも、何れにしても、よく〳〵心を潜めて永久に其人間一人を益することを思わねばなりませぬ。敎へもし、窘なめもする間に、家政の便利を謀るは勿論、其の女一人終生の心得になる樣にと、深切に考がへて遣らねばなりません。

されば是非一言窘なめて置ねばならぬことが有つた時、いふ可きことを、熟と心に考へをき、さて靜かに下婢を居間へ招き、下婢の心を落つける爲、何か一言賞可きことを賞むるか、さもなくば、其身の安否などを親切にたづねやり、然る後本文にかゝるが宜しひと思ひ升。たとへば、

末や、おまへはよく手廻をして仕事を早くするよ、そうして一躰奇麗好だから、わたしも近ごろは臺處をさう見廻らないでも濟む樣で、大層好い、

かふ聞いて、末は奥さまがわたしの骨折を見て下さるかしら、どふだかと平常危ぶんだ疑がとけ、思わず、氣がはづむ、さて其處へ

一躰おまへが來てから、わたしも大層安心して居るけれど、一ッ心配になることがある、何かといふと、夜、暇をやる時餘り歸りの遲くなることだよ。おまへが五十格好の女なら、何とも思はない、たまに夜店を見に出る位のことだから、卅分や一時間遲くなつても、小言はいわないが、おまへの年格好のものを管わず、十時過まで外へ出して置ひて、万一のことがあれば、わたしが申譯がない。おまへがお袋の側に居るのならば好が、さうでないから、わたしがお袋になり代つて氣をつけて上なければならないよ。若いから、わたしが危ないと思ふ譯が分るまいが、誰か年上の人に尋ねて御覽、わたしのいふが本當だから。

又もし臺處へ出掛けていつて何かいひ聞かせる時ならば、そこらの好く片づいた工合を賞めてやるか、さもなくば、昨夜病んだ歯はモウ納まつたかと、深切に尋ねてやり、さて、

おまへは、うちのことといふと、大層深切にしてくれる、洗濯

物なども、暇を見てはよく小奇麗に洗つて置いておくれだが、どふいふものか、客が來ると機嫌のわるい顔をおしだ。お客においでの方は、何か大切の御用があるか、さもなければ、深切に訪ねて來て呉れるお人だから、どちらにしても、うちの者が心一杯にもてなさねばならぬのだよ。餘處へ行つて、其家の人にケンドンな顔をして居られるほど、心わるいことはない、わたしなども覺へのあること、お前なども、知らないことは有るまい。先づお客樣がおいでになるとすると、其日にこれ〳〵と目論んで置いた用事も暫らく見合せなければならない、わたしがさうだから、おまへも同樣、仕かけた用事を置いて、其方のもてなしにかゝらなければならないのだが、それが餘計なことと思ふと違ひ升よ。客をもてなす用は、矢張り、うちの用です。たゞ毎日のふき掃除の樣に諦つた用でなく、不意に出來る用事といふ耳のことです。それ故、おまへもわたしと一ツ心になつて、客に間をあかせて、心持をわるくさせない樣に、是非氣をつけて貰らい度と思ふのだよ。

先づ、一寸、こんな鹽梅ではいかゞかと存升。

折を見て深切にいふ小言は、爲になることが有升が、嫌に思ふことと癇癪的に怒鳴るといふは、決して効能のないことです。尤もな小言で、落ついていふことでも、機を見ず、折を計らずいへば、矢張り無効のことが多くあり升。

適宜に、功を賞して其心を損せぬ樣、鹽梅した上でないと、實に骨折損といふものです。善いことは一々認めてお遣りなさい、惡かつて窘なめられ、漸々改めやうとして居るのも見のがしては、可哀さうです。さりとて、追從するにも及びませんが、滅多にさういふ弊はない樣です。始終、賞めて計り居たら、つけ上りもしませうが、相應の功勞も認てやらぬ而已か馬車馬をたゝきづめにして走らせるが得策とおもふ御者の樣に、叱りづめにするが、今の弊の樣です。お三が心のある御飯を炊しは、一月にたつた一度位がせい〳〵、それに御新さんは、朝箸をつけるかいな、「オヤ、心のある御膳を炊たね」ともうトンキヤウ聲をする。お三はそれより先に手加減の仕損じをしたことに氣が付て居升。併し、お三は「加減の好い御飯を廿九朝も炊て居るに、それはなんとも仰らないで、たつた一朝粗さうをしたとつて」と恨めしげな顔をして居り升。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

理學

つゆ

磬子

五月闇ほのぐらき一間の内、互に机に向ひ、をやみまく、庭の面にかゝる雨の糸、あなうるさと、つぶやく樣子、妹「ほんとうに、つゆは忌だこと。兄「そう一徹に云ふもんではない、何かの本に、五月雨をいとへど、たれこめて、しづやかなる同じ心の友どちかたりあひ、ふみなど見るも、こよなきたのしみなるべしと、書てあつたじやないか。アゝそう云へばお前、つゆとはどう書くか知てるか。妹「こうですかと、云ひながら手早く、梅雨、黄梅雨、黴雨、五月雨と、書きて差出す。兄「いつの間にか大層學者になつたな、感心だ、よし〱それでは一ツ、僕が試驗してやろう。妹「イヤア出來ませんよ兄「何故今頃の霖雨を黴雨と云ふの。妹「何も彼も黴るから黴雨と云ふのではありませんか。兄「そんなら梅雨とか、黄梅雨と云ふ理由は、妹「そんなことは、誰でも知つて居ますさあね、ソラ誰やらのつゆの歌に、青き葉のしげるが中にこのごろは雨にいろづく梅もめづらしと云ふてあつたではありませんか、梅が熟す時分の雨だから、梅雨なんでせう。兄「どうも恐れ入つた、たて板に水、夕立の雨だれ、アゝそう〱、其梅で思ひ出したがね、昨日夕飯後、雨止みに、庭に出て、しきりに、あの大きな梅の木をながめて、お出でだつたが、どうもあやしい、うれしさは葉がくれ梅のひとつかな、なんてにつこり微笑て、鳥渡手を延し、摘み取て袂にいれ、陰密がり〱やつてはいけませんぜ、青酸と云ふ劇毒が、梅のうちにはありますから、妹「ヲホゝ兄さんではあるまいし、そんなことをするもんですか兄「どうだか、保證はできんてハゝゝ　妹「兄さん今度は私が知らないことを伺ひますよ、ようござんすか。兄「ヲヤ〱シツペイ返しか恐れるねエ、妹「日本では何故、今頃になると、年々雨が降續くのですか、兄「温濕な季候風と、寒冷な貿易風が混合して、暖風中の濕氣が凝結し、雨を起すと云ふわけさ、一躰北半球の冬期は、西北風が吹くのだが、梅雨のころになると、西南風に變じ、西南風は生暖かな濕風だのに、大陸か

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ら吹て來る貿易風は、乾燥で寒冷で、全く前の風と反對だ、此二種の風が混合するとき、季候風中に含むでる、多量の濕氣が、凝結して雨となり、降り續いて、毎日〳〵びしよ〳〵やつて、出入に不便を感じさするのさ。妹「チヤそうですか、それから此節の雨期には、何故あんなに、着物が黴びたり、色が褪めたり、刃物が銹びたり、食物が腐敗たり、何かするのでせう。兄「あのあすこにかけてある、日本地圖を御覽、あの通り、我國の西南には、一面に大海ばかり、あるだろう、あすこからやつて來る風だから、無論潮氣を帶て居る理だ、其潮氣を含むで居る、空氣が凝結して、降てくる雨の所作だから、お前の云ふ通り、何もかも黴るのだ、併し都人士は途上が悪いの何んのと、小言を云ふが、此雨が降らなかつた日には、それこそ大變、米が騰貴つて、食るとか、食んとか、盜んだとか、盜まれたとか、首くゝり身投げなんて、云ふやうな下さらむことが流行し、一騷動やらなければならむて、マア出入の不自由位は堪へなければなるまい、妹「本統にそうですとも、そうですとも、それに違ひはありません、けれども、兄さん、戸外は仕方がありませんが、家の内だけ、何とか濕氣を防ぎやうはありませんか。兄「僕もそう思ふこともあるけれど、これがどうも、化學實驗室で、乾氣法を行ふやうに、强硫酸や、生石灰で、乾かすこともなるまいし、どうも困るのさ、何だか蒼朮をたくと良いと云ふことを聞て居るが、之れも實驗せぬことだから、眞僞は知らむ、妹「どうもそうですかねへ、しやうがない、そうして彼の、貿易風は、地上最高温度の地に向て、兩極より吹てくる寒風だと、思ひますが、季候風と云ふのは、どんな風です、兄「委しく云へば、隨分面倒だが、簡短に要領を云ふて上げやう、アノ今お前が云ふた、貿易風の北半球の方に、吹くやつは、地球回轉の爲めに、正北風でなく、恒に東北風を爲して居るが、此風は季候の寒暖に由て、其位置を進退して、海水の冷かな時には、北緯二十六度位な所まで、行くに過ぎないが、海水の暖かなときには、三十五度位な所まで、進行するのさ、所が熱帶地方即ち印度邊では、大陽が冬至線か赤道を、照す間は矢張東北風を受くるけれども、大陽が夏至線に近く時は、其方向を西南に變じて、北の方に進み行き、此風の過る所は、盡く雨を降らすのさ、こんなふうに、いつも此風は時節を違

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

へず、吹くものだから、季候風と云ふのさ、妹「へエーそうなんですか、おかげでよくわかりました、それでねへ、兄さん梅雨はいつあがるのですか。兄「平年は六月十一日より三週間、閏年は同月十日から三週間を、梅雨期と云ふそうだが、俗につゆ三十日と云ふ通り其前後に降るから都合三十日間は先づ降られる覺悟せにやなるまい、チヤ／＼餘り饒舌て居たら、そう／＼、語話が見へなくなつてきた、ドレ洋燈でも命じやうか。

小説

春風裡

トーストイ伯、著。
不知庵主人、譯。

第五（上）

マカアは嫁入道具を調へんとてモスコオに行かんと主張しセルギイの母は家を修覆し馬車を新調する事を勸めたが、さりとて結婚を遲延するの道理もなければ、斯る細末の事は惣て後廻しとして、自分共は誕生日後二週間を經て極めて質素に來客も待女郞も三鞭も何も彼も總ての儀式は悉く略して結婚した。

セルギイの物語に依れば、母は此通例極りきつた儀式を略した事を頗る不滿足に思ひ、音樂を奏し大客を一となだれも會し、三万「ルーブル」を費した母の結婚式の時の如く家中が顚倒かへるほどの騷ぎをしたかツたのかも知れぬ。しかし母親は夫々に戎氈几帳等の調度を準備し取締のマリユーシカ女と色々協議を凝して自分夫婦の幸福を補ツて呉れた。

我が家ではマカアと自分の待婢クシミニイシカと諸事まめ／＼しく家事的の技倆を振ひ何呉れとなく自分の世話をして自分兩人は終日蕩然として愛戀の夢境に漂泊ひ只管、他日の幸福を描くのみに時を費し、自分の衣服諸調度、禮服の刺繡から「ナプキン」「テーブル、クロース」に到るまで、悉く其手を煩はした。

ニユオルスキイとポコロオウスキイとの間には曰く少から

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ざる秘密の通信が往復したは、元來セルギイの母とマカアとは熟懇の間柄であるにも關らず、此婚禮の準備に就て互に競爭して善美を盡さんとしたからである。

此頃から自分が一層親しくなつたタシヤナセシヨオノウナといふは嚴格な氣象の張ッた古風な婦人で、セルギイは自己の母の如く尊奉し誠意をもて交はり世界第一の淑德ある賢夫人なりと稱讚し、タシヤナ、セシヨオノウナも亦自分一家と極めて睦じく互に圓滿な交際を結んだ。

自分兩人は結婚の約束をして愈々式を擧ぐるまでの二週間は、毎日セルギイの訪問を受け、午餐から夜半までいつも一緒に後の事どもを語らひ嬉しき日を送ッた。しかしセルギイは丹心を自分に明し、一日たりとも自分なければ生きてゐられぬと云ひながらも、曾て丸一日自分と一緒にゐた事なく、日々の職務は少しも怠たらず規則正しく之を勤めた。で一緒に會合した處で其容子其談話は惣て前日に變らず、互に『お前』と呼ばずして矢張『あなた』と云ひ、自分の手に接吻する事もなく、又唯二人だけの對座を求めざるのみならず、寧ろ非常に之を避ける樣な躰であつた。

此頃は時候頗る不順で、天暴れ雨凄まじく、自分共は餘義なく戶内に垂籠めてゐた。自分共の愛する席はいつも「ピヤノ」と窓の間で、蠟燭の光は細く仄暗く、雨は戶を打て物凄く、樋を傳ふ水は激しく瀧の音をなし、戶外の騷がしきに似ず、戶內は常よりは反て寂然として、しめやかであッた。

『此間の甲氏と乙孃の咄は記臆えてるかネ?』とセルギイは此じめついた或る晩自分に向て訊ねた。

『えヽ記臆えてますとも。だけれどもまァ纒りがお目出度くッて好かッた事ネヱ』

『左うです、一ッ踏み違へやうもんなら一生不幸の境に落ちる所だッたが、全く貴孃に救はれたんです。しかし今考へると虛僞を吐いたのが自分ながら恥入る………』

『なんですネ、最う濟んぢまッた事を』

『いヽヱ、自分自身を叱ッてるんです』

『なんですよ、そんな事をするもんぢやァなくッて………』

『全く私がやり損ひだ、私が種々失策をした擧句、地方に歸ッた時には、最う戀をする盛りは過ぎッちまッたから、何でも此中年を易々と送る義務を濟ませうと思ッた。處が貴孃に

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

會ふと、初めッから如何も少し可笑しいナと思ふたが、まさかに自分の樣な老朽ちたものがと、自分の情を信ずる事出來ず、色々に疑ッてる中に段々深味に陷ッて、或る夜の事ッてしたッけ、（貴孃は記臆えてるか如何だか知らないが、）貴孃と一緒に庭を歩いてゐた時實に自分ではッと思ッたヨ。考へて見れば私は得る事が多いとも與へる事は少ない貴孃は年が若く且はゝ蕾で是から春に遇はふといふ身、私は既に浮世の慘風悲雨に沐して冬枯に向ふといふ身だもの、貴孃は何にも知らず、世の中は唯面白くて人間は遊んでさへゐればいゝ樣に思ひ、愛戀といふ事すら初めてゝ、空にまゝ事遊びと仝樣に考へてる――斯う云ッちやァ失禮だが――』

『何んですヨ貴所、貴所本統に云て頂戴な』と自分は言葉を切り、『イヽエ、そンな事ァ過ぎた事ッたから仰しやらなくッたッていゝワ』

『貴孃は私が是まで愛した事があるかッて聞くンだヨ』と自分の所存を悟ッたらしく、『私は是まで愛した事も愛された事もない』と云て少しく躊躇ひながら、『貴孃だけだ――私が自分の愛念を傾けたのは唯貴孃だけだ』

『夫でも與へる事は少ないと仰しやるンですか』

『貴孃に與へる事は少なうござンす。私は樂しみで寢られぬ事もある、是まで送ッた日は隨分長いが、眞正の幸福といふものを認め得たのは今度が初めてです。私の幸福といふのは此狹い片田舍に住ンで他人に善根を施しながら氣樂に安々と暮す事ッて、毎日怠らず適當の勞働を爲し、慰みといふは讀書音樂の外には自然を樂むか親友と遊ぶだけの事で、私の理想から云へば此位幸福な事ァないンだが、是は貴孃には分るまい。貴孃の樣な子供の眼では私が幸福と呼ぶものを幸福と認める事ァ出來ん、だから私が幸福を得る事が多くても、之を幸福と認めぬ貴孃に與へる事は極めて少ないンだ………』

『いゝエ』と自分は答へた。

『若し又貴孃が私と同じ樣に幸福を認めると云へば、之は一時の眩惑で、如何して貴孃の時代には奇麗な物や華美な事が眼に附くばかりで、唯外面の面白い事に氣を奪はれるのが當然で、中々私が云ふ樣な幸福を認めらるゝものでない。貴孃に幸福を認らるゝのは私が貴孃を愛するといふ一事だけだ』

『いゝエ、あたしは氣樂な田舍住ひの外には何にも望はありません。貴所が今仰しやッた幸福とはあたしの思ふ通りです』

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

渠は打笑ッて、『左う思ふんです』と云て『去かし貴孃の爲には極、極少ない樂みです貴孃は年も若く容貌も佳い』と力を入れて言放した。

自分は自分の少しも信ぜざるを悟て心中穩かならず、殊に甚しく自分の弱年と美貌を擯斥する容子を見て、『そンなら如何してわたしを愛するンです』と堪りかねて訊ねた、『そンなにわたしを見くびりながら』

『どうしてだか知らないが、何だか可愛いのサ』と答へて、じッと身も魂も溶ける樣に自分を凝視めた。

自分は返事を爲さず、何心なく見上げると、不意に一種の感情が熖上ッて胸がドキ〳〵して、四面は靄に包まれしが如く目前の渠の姿すら眼に入らなかつたは、自分を凝視める渠の眼底に光ありて閃電の如く自分の躰に投じた樣な心地がしたからで、嬉しさと恐さを混交ぜて心神恍惚として其果は、モヤクヤして顏は上氣して仰むく事が出來なかッつた。

結婚の前日空は漸く晴れ、涼しき秋風は連日の降雨と交替りに窻外を訪づれ、天地爽かに蕭騷として秋景色を現じた。

兒籃

三階にお住ひなされまし

志づ子

有名なる"Natural Law in the Spiritual World"の著者ヘンリ、ドラモンド博士が、嘗て少年會に對つて話された所感中に、左の一節があり升。譯してみなさんにお目に掛ます、

諸君たゞ今實地に、試驗を一つ試みて御覽なさい。成効するかどふか分りませんが、兎に角、やつて御覽なさい。何をかといふに、頭りに置いた帽子、を手を用ゐず、頭の上の筋を使かつて落して御覽なさい。こゝに見へる大勢の方々の中で、實際其ヿの出來る人は、二人とないかも知れんです――。なるほどあすこに御座る方が、大分甘くをやりなさる。さて、其次には、耳を手つけずに、動かして御覽なさい。左樣二三人試驗が成効し升たな。さて、通例人の出來ぬヿを、なぜ其方

く々が出來るのでせう?。耳を動かし、頭の皮を動かすとの出來る人は、實に百中の二三に過ません。其二三の方々が、持つておいでなさる利筋は、とりも直さず獅子の頭にある筋と同じもので、即ち獸類中の大王が鬣逆立てゝ威風猛々しき相貌に變る時用ゐる利筋で厶ます。同じく、猫同士、クワット大口開いて喧嘩する時用ゐるも同樣なものです。

さて、人間で、少數のものにしろ獸類同樣の筋をもつて居るといふ理由は、なんで厶ませう?。學者中間に尋ね升と、昔し〱大昔し、私ども先祖といふは、取りも直さず獸類で、此利筋といふは、即ち彼等が遺物だと申升。

耳を動かす筋は、野兎や鹿などが聞耳を立てる時につかつたものと同樣です。それからまた、あなたがたの耳の外樣の中の方をズツト指の先で撫でゝ御覽なさると、ポツリと、堅くなつたものが有升。その由來を尋ねて見升と、是も前條と同じ理屈で、今の通り疊まつた樣な耳に變じるまへ尖つた獸類的の耳の角で有つたものださうです。

骸骨を見にお連れ申ても分り升が、人間は、獸類專有の骨をいくつも持つて居り升。例へば、あなたがたも、私どもゝ七個か八個ほどの骨で組たてゝ有る、紛れもない後尾を各自持參で居り升。あなたがたは、フロツコートの後ろに不用のボタンが二つ附てる由來を御承知ですか。之は昔し、人が馳走に招かれて、着物を着かへて行く時分に、通例馬に乘つたものですから、橋の架からない川流を渡るに、コートの裾を此ボタンへ引かけて止めて置いたのです。此二ツのボタンの實用は、夙から人が忘れて居升。併し、いまだにコートの附屬品になつて居て、此ボタンの附かないコートを着て外へ出る外聞のわるさは、跣足で出るも同樣に思ふ位です。さて、頭の皮を引ばる筋と、耳を引たてる其筋が、どの樣なものといふに、つまり、コートの後ろについてる、二ツのボタンの樣なもので、今こそ役目はなけれ、昔しは一廉の用を爲したものの古跡です。

それはそれでよしとするも、私どもの身躰には獸類的の分子があるといふとになる、私どもが、獸類的の分子を身躰に存して居る以上は、亦獸類の本性を幾分か存して居るといふとになり升。例へば、聽衆の方々の中にも、虎も御座らう、熊も幾人かあらう、又蛇もないとはいはれんのです。夫故、あなたがた

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

が、本性の道德心に離れて、一寸猛々しさが虎の樣だといふ時、また理の當然を辨別す可き時に、熊の如くにすねたり、片意地を張つたりする時、又蛇の如くに卑怯千萬の振舞がある時は、人間として有るま敷ことゝ判然して其由來は他にあるといふことになり升、決してあなたがたの所爲ではない、昔し〳〵、大昔し、世に出た奴の所爲なんですから、熊がうなりだしたり、蛇がのたくり出したりしたつて、落膽してしまつて、「モウ己れもだめだ」なんぞと思ひつこなしです、あなたがたが責任を負ひなさらねばならぬことは、かふいふ性質の存否ではなくつて、さふいふ劣等なものに、己れの生涯や行狀を打ち任かせて置くか、置かんかといふことに、あるんです。それで、折々心に湧き出す劣等な考への性質を、熟とお調らべになり升と、いよ〳〵もつて其獸類的であることゝ、一個の人間として、私どもが、さふいふことを後ろに殘して、漸々高く進步して行く可きものといふことが、お分りになりませう。學者に聞いて見升と、私ども人類は、數百万年間、獸類で有つたさうで、それから稍やく一步進んで、野蠻人になり升たさうです、ですから、今だに、私どもの性に、其野蠻な處を存して居り升。

それですから、つまり私たちは、三階に出來て居る樣なものです。最も下の床は、とりも直さず野獸の穴です、忌む可き仕來り、憎む可き習慣の巢の樣なものです。一段登つて、其上は野蠻人の住居で、私どもの心に折々殘酷、無慈悲な考へ、我儘勝手な思想を送り越し升のは、全く此處の產物なのです。

それから、其上に正物正銘の人間が住んで居り升のです。

あなた方に、此お話しをするといふのは、二ッの理由が有つてです。第一は煩惱心の起る時、それを罪と思ひ誤まらぬ爲です。罪どころではない、御承知の通り、それが却つて好いとなんです。即ち德を立てる好機會です。其煩惱心に戰ふ時が、即はち私どもの品性を堅固にする時なんです。第二はあなたがたが善惡の競爭にこれまで中〳〵立派な立塲を得られたに係はらず、謙遜なさる爲です。かふいふ結構な集會をしておいでなさる間は、本性の人間が上手になつて居り升が、さりとて、煩惱の犬や野蠻人は每も扣へて居つて、生涯の終るまで、決して消へ去ることは有ません。それ故、己れ立てりと思ふものは、心して倒れない樣にせねばなりません。それで、かふいへば、どふやらめゝ敷樣に聞こへるかも知れませんが、熊が

うなり出し、野蠻人が劣等なとを勸める、總て下の方のものが、上手になるといふ勢の時には、拳を固めて、公然戰を挑むといふよりは、どふかそれは卑怯と仰やるかも知れませんが、反向かふのは、全く無益です。箇はず、後を向いて、お逃げなさい。何しろ、人間がまだ若いものですから、却つて劣等のもの丶方が強のです。人間は、世に出てから、僅か數千年にしかなりません處が、野蠻人は幾万年といふ昔に生活を始めたのです。それ故、人間がさういふものと戰爭を始める時にはヒケをとる譯です、勝を占める策といふは、敵に後ろを見せて逃げるが一番です、公然戰を催すとは、兎に角不利だといひ升たが、それより、一段立勝つての必勝策は、一切下等の方にて住まんとです。ポールといふ昔しの先生は、其訓戒を一言立派に申升た。「靈に於て歩むべし」といふとです。即ち、三階に住居をしろといふとです。生涯劣等なもの丶居た方へは、立障らんが宜しい、さうすれば、滅他よヒケをとることは有ません。

摘要

○泥棒に金持なし

「盜賊に金持なし」とは、金を遣ふ爲のみならず、實際、金の入り少なきなり、玆に近年の大賊、清水定吉と云ふもの丶一例を語らんに、彼は、明治十三年十月三十日の明け方、四十三歳にして、神田東福田町質商松澤牛助が父平助を斬殺したるより、十八年二月二十六日明け方、淺草黑船町八番地酒屋兼兩替商小西金七が老母まきを銃殺したる迄の年月、四年と三ヶ月二十六日にして人を殺せるは六人、内男四人、女二人、人を傷つけたるは男七人なり。然るに、實際其の稼ぎ高幾千ぞと云ふに、大畧合計千〇十六圓七十四錢五厘五毛、品物八百五十一を別にすれば、日割として一日六十四錢四厘五毛、即はち月二十圓の官員方よりも收入少く、日に四十錢をかせぐ正直なる車夫より多き事とづかに七八圓なり。嗚呼天道は昭々たり、額に汗、滴々たらざるものが眞の富を得るは難し。(都新聞參觀)。

○相撲幕の内給金表

東の方

四股名	給金
西ノ海	金九十圓
小錦	金六十九圓
朝汐	金五十一圓
響升	金四十三圓
千年川	金三十五圓五十錢
北海	金三十三圓五十錢
外ノ海	金三十圓
大逹	金六十一圓
今泉	金二十六圓
若湊	金五十圓
大碇	金二十六圓
大蛇潟	金二十三圓五十錢
大纒	金二十六圓五十錢
芳ノ山	金二十圓
響矢	金二十一圓五十錢
天ツ風	金二十圓
高浪	金二十五圓五十錢
音羽山	金二十九圓五十錢

西の方

四股名	給金
八幡山	金六十四圓五十錢
大戸平	金五十七圓
逹ノ矢	金五十七圓
司天龍	金四十一圓五十錢
谷の音	金三十二圓
大砲	金二十七圓五十錢
高の戸	金二十四圓
出羽の海	金四十四圓
鬼ケ谷	金四十一圓
大泉	金三十三圓五十錢
知惠ノ矢	金四十圓
柄の平	金六十六圓
平ノ戸	金三十一圓
大戸崎	金二十八圓
鳳凰	金二十五圓五十錢
小松山	金二十圓
小天龍	金二十一圓
鬼鹿毛	金二十八圓

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

閑書

○夫婦別居の事につきて

本鄕の一女子として、左の書狀來る。姓名別に記しあれど、玆にはわざと掲げず、文章は、一句も改ためず。讀む人、其限りなきの情を讀むべし。

拜啓妾儀兼て貴社が毎々我等婦人のなすべき事柄等につき熱心御注意被下候は乍陰深謝致居候就ては妾儀我身上に逢遇したる事にして感ずる處有之候間恥をも顧みず申上度に付御判讀の上微意の存する處貴社發兌の女學雜誌に御掲載被下候はゞ幸甚の至りに御座候妾儀は四年前結婚せしものに候得共良夫は都合上婚後間もなく妾及父母を殘して西京に轉居し其後月に一回若しくは隔月に一回位は上京したるもそれさへ僅々一兩日間の滯在なれば全く別居の有樣にて昨年末に及び漸く此地に立止まり同居する場合とは相成候然るに如何なる次第なるか世の方々の如く相愛の情等も厚からず旁親睦なる一家族を作る能はず今尙困居候加之かく同居せしため他に一のにくむべき惡結果を生じ之には一層困入候そは良夫西上して或婦人と懇意し終には獨身の如く云ひなし行末の契りを結びたる事に候元來良夫は性質かたき人と聞き居りしに何故妾を愛するの情薄きのみならず他人と結契せし程かわりたるかと色々考ひ候處これには又あわれむべき處ありと被思候何故と申せば夫婦相愛の情なして永遠迄かわる事なく厚からしむるは婚後一二年間は最も關係あるものと被思候然るを婚後間もなく別住せしたため斯情喚起の時期を失ふて今尙相愛の情厚からざるものと被思候又左樣に相愛の情を發生し始め未だ全く得ずして居を別にしたるを以て自然他人と懇意する樣になりたるものと被思候如此して親睦なる家族を作る能はざるのみならず該婦人の始末をつくる事甚六ヶ敷爲に云ひがたきの困難取纒ひ居候

左れば今後結婚せんとするものは婚後同居する能はざる場合あらば決して婚せざる方よろしく若又事情婚後に生じ別居する樣の場合あらば萬障を排し夫に從ふて同居する方よろしかるべしと被思候然る時は大抵の故障は都合出來べく又其事情にして經濟上の事などに至りては相愛の情の愉快は少しの不都合は却而都合よく可相成と被思候それのみならず志氣未盛んなる男子をしてにくむべき罪人となすとも有之間敷延て親睦なる家族を成立し以て社會の隆盛を來す一助とも可相成と被考候聊か恥辱を顧みず右申上候に付愛する諸姉御一讀の榮を玉へなば妾の幸福無此上御座候不備

强情はりて責檻されし剛坊歎息つくづく

でもとうさんだつて、少さい時は强情だつたに違ひないよ。
こんなに大きくなつても自分のいふ通りにしなけりや聞かないんだもの。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

史傳

雲松庵村田多年女史

女史ノ名ハ壽ト共ニ輝キ女史ノ德ハ婦道ト共ニ高ク倚ホ員ク天年ヲ完フシ而モ修優自適塵世ヲ去ル古來英傑ハ亂ニ際シテ顯ハレ人才ハ難ニ處シテ知ラル然レドモ其能ク躬行平歩ニ因テ名ヲ顯ハス者則シ殊ニ人世最貴ノ壽ニ至テハ女史ニ及ブモノ果シテ幾何カアル秦皇不死ノ藥ヲ蓬萊ニ求ム漢武亦然リ然レドモ女史ハ自ラ任シテ躁躍タラズ其壽ヲ結ブ數秩ノ上ニ位ス女史又人世ノ榮聚ヲ極ムト謂ツベシ已臨終ニ先ツ數日自ラ終焉ノ迫ルヲ知リ身邊家族ヲ近侍セシメ正襟端坐シテ曰ク我生アリテヨリ今日殆ンド百星霜其間ダ能ク身體ノ健全ヲ保持シ曾テ中心ノ痛苦ヲ感ゼズ惟フニ人生ノ至幸上天ノ恩惠ニ浴スル寔ニ斯ノ如キハ稀ナリ我又何カ言ン識雖單ダ餘涙ノ漂ルヲ覺ユルノミ顧ミレバ子孫ノ孝養亦儲ニ我ヲ充タシメ我ヲシテ一ノ遺憾ナカラシム願フトコロハ汝等子孫ノ永ク相信睦シテ幸福ヲ享ケ親戚知友ノ壽考ヲ完フシ康安ヲ保ツニ在リ今ヤ我命近キニ在リ現世共ニ語リ共ニ笑フモ幾何時ゾ思フテ玆ニ至レハ沒後ノ聞歸モ今ヨリ徐々話センノミト聞クモノ泣然謹テ命ヲ待ズ女史欣然更ニ微笑ト目禮トヲ以テ之ヲ謝ス溫容恍トシテ今猶ホ見ルガ如シ、

前敍剝孫者佐藥ヲ勸シテ進ム女史器ヲ手ニシテ一度服終時ニ法ヲ守リテ之ヲ喫ス子女ヲ顧ミ莞爾トシテ曰ク之レ貴ニ生ヲ然レドモ既ニ常桑タ孝道ノ好趣ヲ解セズ乞フ誤ニ乘ジテ之ヲ辱フモ決シテ孝篇ニアラザルベシト問者彼々音容更ニ繼セズ嗚呼心自ラ起タザルヲ決シ待其可從ノ亂ルヽヲ見ズ女史ガ懷中素湖汚スベカラズ精確毅力スベカラザルモノニアラズンバ何ゾ能ク斯ノ如キヲ得ンヤ孫女僧亦嗜好ノ精ヲ萃メテ酒食ヲ進ム女史又喜ンデ之ヲ摂リ反復丁寧其厚意ヲ謝ス女史ノ言行生來一斑斯ノ如ク寛信靜肅荷モ動カス人ニ接スル春風ヨリモ溫ニ自ラ戒ムル秋霜ヨリモ嚴ナリ、

嗟ニ就キ藹然危坐シ神色自若家宥ヲ顧ミ存生ヲ目シテ曰ク我若ト病アルニ非ラス則チ又悠然懸ルヽノ比ニアラサルナリ汝ガ之ヲ寄ゼヨ今宵寒威凝烈劇スガ如キヲ覺ユ子等深ク自愛シ今ヨリ早ク寢ニ就クベシト言靜王ニ及ブ女子ガ子孫ヲ捉攄スル處ニ皮肉ニ徹ス臨終猶ホ此言ヲ聞キ春生特タ感謝ニ堪ヘズシテ從カニ退ク時十時近キテ之ヲ視ル哀哉眼ハ緩ニ閉ヂ愛波澁レントスル如キモ復タ見ルナク目ハ既ニ鎖シ温管洩ントシテ呼ビ呼バス耳ハ開クヲ願フモノヽ如クシテ愛子ノ絕呼猶ホ感セス、

爾來一塊ノ食一滴ノ飲ヲ取ラズ靜臥泰活數日神心豪逸世塵外正ニ是レ雲松庵村田多年女史生涯最終ノ安眠ナリ、

女史ハ舊津和野藩士高橋彦之丞陳教二女ニシテ實ニ寛政六年一月十一日津和野城下官場丁ノ里ニ生ル幼ニシテ母ヲ喪ヒ嚴肅ナル繼母ニ事ヘテ孝順鄉黨孝ヲ稱ス六七歲ノ頃繼母ノ命ニ從ヒ日毎ニ綿糸五匁ヲ紡ク業終ラザレバ三伏冱寒モ亦憩フヲ得ズ而シテ女史能ク耐ヘ過分ノ業モ之ヲ勉メテ倦メル色ナシ衆見テ大ニ感ズト云フ二十二歲ノ時村田順右衛門吉寛ニ嫁シ室ヲ繼ク姑ニ事フル孝順夫ニ從フ貞實而シテ先子美賀ヲ保育スル所生モ啻ナラズ美賀長シテ配ヲ白井氏ニ求メ其沒スルニ及ンデヤ女史再ビ家政ヲ督シ孫ヲ教育スル最モ勉ム素ト女史ノ家族ヲ遇スル親切ヲ極メテ毫モ疎隔スル處ナシ故ニ家族ノ女史ニ事フル亦孝養至ラザルナシ族和シ家齊フ吉寛常ニ家族ヲ戒テ曰ク正直慈愛忍耐ハ幸福ノ基ナリ夙起勞働淸潔ハ健康ノ礎ナリ而シテ人生ノ活機時ニ身心ヲ慰愉スルナクンバ則チ傷ム且余性卞急事ニ害アルヲ知ル詩歌ヲ咏シ琴ヲ彈シ其心ヲ寛綽シ以テ之ヲ矯ム少時過チアレバ之ヲ改ルニ吝ナラズ故ニ心常ニ淸廉ナルヲ得汝等亦餘力アルトキハ各其好ム所ニ隨ヒ樂ヲ得ヨト女史終身此語ヲ恪守シ依テ以テ子孫ニ示ス女史ガ積年ノ薰陶實ニ宜シキヲ得タリト云ベシ吉寛ノ沒スルヤ薙髮シテ雲松庵ト號ス晚年家政ニ關與セザリシト雖ドモ身常ニ健康ナルガ故ニ紡績ヲ營ミテ家計ヲ助ク後チ感有テ頁神ヲ信ズ時ニ年九十五有朝夕姿勢衣襟ヲ正シ禮拜ヲ終リ家族ノ安否ヲ問ハザレバ事ニ臨マズ居常道ヲ說テ人ヲ救フヲ樂ミトシ其變ヲ以テ人ヲ待ツヤ貴賤貧富ヲ見ス又好ンデ青年ヲ導成シ煩勞ヲ厭ハズ今日碩學鴻儒ノ間アル福羽美靜氏西周氏ノ如キモ曾テ儒ヲ村田美實ニ學ブヤ小史亦懇待優遇數年變セザリシト女史資性溫良謙淑能ク女徳ニ適ヒ常ニ子孫ニ對スト雖ドモ未ダ曾テ端坐セヲ正サズンバ言ハズ、

在世中賞ヲ受クル六回天保二年歲始テ三十八孝養貞順齊家ノ績ヲ以テ藩主託紋ノ絹衣ヲ賜フ、

安政二年手カラ綿糸ヲ績キテ藩主ニ獻ズ藩主賞トシテ頁絹ヲ賜フ、

明治十一年龜井玆監公ノ來遊ニ際シ自製頁絹ヲ獻上シ賞金ヲ受ク、

明治十八年龜井玆明公ニ謁シ直綿及今彩袋ヲ製シ獻シテ幅紗及ヒ黃白ノ賞ヲ受ク

明治二十年島根縣知事ヨリ賞ヲ受ク曰夫在世中能ク貞順ヲ盡シ兒子ヲ撫育スル極メテ懇到其志操洵ニ奇特ナリ因テ金二圓ヲ賜フト、

明治二十二年齡九十六憲法發布ニ際シ高齡ノ故ヲ以テ朝ヨリ養老金下賜ニ付女史錦相謀リ縐ヲ終ヒ生絹一疋ヲ織テ獻納ス宮内省褒狀ヲ授與セラル、

女史世ヲ終ル百歲明治二十六年二月二十日午前一時卒ス同日見了山本性寺先塋ノ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

次ニ埋ム女史ノ如キハ人生ノ幸福ヲ享ケ人生ノ義務ヲ盡シ俯仰天地ニ耻ヂザル者ト云フベキ乎、

明治二十六年二月　曾孫　片山正護識

孫　村田春生校訂

妹山神秀　錦水淸冷　壽考維祺　懿德維馨　千秋萬古　雲白松靑

嗚呼德有ツテ而シテ壽ナキ天ニ非ザル也壽有ツテ而メ德ナキ其人ニ非ザル也淑得洵ニ雲松菴ノ如ク高壽洵ニ雲松菴ノ若クンバ天ノ人ト何ノ帷カ之レ有ラン

明治二十六年三月　日東　岩本生拜識

雲松菴女史君の傳をよみて　福羽美靜

あふくへき行ひありて齡さへ高きを見れば君にぞありける

○附　錄

（雲松庵の衞生の噺し幷平素の噺し雜記）

雲松庵三才（滿三オひもをさしの後）の頃より廿二歳迄、衣物は暑中は手織の單物。嚴寒さいへども襦袢袷の二枚の外身に纏ひし事なし。此時代は婦人羽織抔を纏ひ不申風俗なる樣子◎食物の事。常食三度の外不食、尤六七歳の頃、近所へ行きたまく〳〵鹽まめいり晩茶抔御馳走に相成候へば、當時上等よふかんに宇治茶の御馳走よりも嬉しきさ申事。其頃は、茶さ云事なき（茶さは俗にいふ事にて午後四時頃に飯を一寸一杯食ふ事なり）寛政時代は、年賀抔の御馳走も、津和野邊上等社會の品位は、赤飯、酒は濁酒、煎染は、牛房、こんにやく、こん布、位の事被申。今日の平常食より少しよき位なり◎衣服等も凡て自分製の品なり◎朝は夜の引明、東方の白む頃には起き、朝夕、顔手足を洗ふも、寒暑さも水なり。村田家に嫁してより、湯をつかふさいふ◎第一の樂しみは、男女さも少年を教育する事にて、人の花見芝居見に參る樂しみより面白しさ◎春生父美實初、春生の子、其他美實門人親戚の子供を、愛育するさ、自身の子さ異なる事なし。小傳にもあるさふり、西周君だちの年頃の人抔は餘程子供の時から、修身の昔の噺しを聞し申した事もあり◎凡て子供への噺しは、修身、品行、養生の事を中の外、くだらぬ噺しは、けがにもせず◎孝のはなしをするには、舜、閔子騫、陸績、忠の噺しは、楠正成、孔明、道德の噺しは、明道先生、溫公、昔し噺しを引きて申すなり◎六十歳の頃より酒を嗜む（時間は夕飯前杯にて二ツ凡三勺乃至四勺其外一切不飲）子孫を愛すさいへども、飮食嗜好の物品を澤山に與ふるを抔は、一切不致、子孫も雲松庵の申事は、一切違背いたさず、雲松庵が朝夕不斷申譯は、愛は德を建るさ、正直さは、何の噺に付るも、前後もれ不申、早起、勞働、淸潔、教育は、臨終まで怠り不申、臨終前迄も、風呂へはいり、手仕事もしました◎雲松庵が一番しまいのはなしは、春生の子供を呼びなまへがたは、まめで、行儀よく、御兩親のいふ事を、よくおきゝなさい、おまへさん方のおかゝさんは、村田家へ嫁してより、私しの意に少しも御そむきなく、よく御きゝなさつたゆへ、私のよふなつまらぬばゞあも、まことにうれしくて、ありましたゆへ、子供だちもおまへ等の御母さんに習ふて、正直に、おかゝさんがばゞあに仕へる如く、おまへがたも。御兩親に御つかへなされへ最早ばゞあはものをいはぬから、さ申して、菓子を子供等にやり、是が臨終前一番のしまい子供に申しました◎折しは和歌も咏じました。

○添　書

（其一）　西周先生書翰寫し

御祖母樣御義多年長壽にて本年百歳に至る處本月二十日御無病にて御臨終相成候段御通知被下且御臨終前御家族をよび集め御遺言にて御存生中御健康なる御顏面を小生にも御贈越被下難有奉存候回想すれば當時尊大人美實先生御門に在りしこさ數年當時俊秀子弟の間に齒せしも偏に美實先生之御德さ深く難有存罷在候然るに其際御恩を受けし其母堂たる老婦人君の御染筆さは誠に小生之喜何物歟是に若くべき欣然罷在候僕本年六十有五歳於壽命少しさせず然れども碌々無爲近年不幸に中風症に罹り語言皆蹇さも不自由罷在候回顧すれば當時美實先生門下に在りし者當時多くは存する者稀乙第一坂村佐代治君新井宣輔君村上專助君野坂中藏君牧槇九郎君牧君は存命なりや此事不要回報唯追懷の儀記する也然るに僕家法さして面識ある者不幸に逢ふ時は必ず香奠を具ふるの例なり尊祖母君も既に二月二十日御臨終さあれば香典を供する例あり御喜凶を混するは如何に存じ居り候追而得幸便呈上可仕さ心に誓ひ候事に御坐候恐惶謹言

明拾廿六年三月五日　西周再拜

村田春生樣

（其二）　福羽美靜先生書翰寫

御紙面拜讀仕候御祖母樣御高齡珍重仕居候處過日終に御永眠之由殘念之至り御悔山々申述候猶御遺言委細御示し實に難有奉存候御認物永く想像の寶物さ可致右御悔御禮申上候乍御粗末備物料金壹圓呈上仕候御落手被下候右迄早々頓首

三月一日　福羽美靜

村田春生殿

再伸　御祖母樣御傳拜見致し候所至極美事に詳かにて相祝候何かの雜誌へ掲載させ可申さ奉存候猶一首吟の咏認め差上候間御入手被下候之

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

通信

淡海子編

●宮城縣通信

◎宮城女學校々長の送別會　同校長プールボー同教師エムマの二孃は滿期にて來る七月一日仙台出發に付、去る十日午後二時より日本基督教會に於て送別會を開かれたり、當日の裝飾は頗る簡潔なり、會するもの無量百五六拾名にして、三浦牧師會を司り左の順序にて執行せられたり

一讃美　二聖書朗讀　三祈禱　四謝狀贈呈　五教會の謝辭　六忠愛の友倶樂部の謝辭　七プールボー孃の答辭　八讃美歌　九祝禱

右終りて二孃に贈らんため一同撮影なし後ち散會せられたりさ、因に云ふ宮城女學校々長の後任者はモール氏夫婦なりさ云ふ、

◎織工場　仙台市には元來無職業の女子多きため識者は之を歎じ居りけるが、今回井上氏が織工場を設け是等の女子を募りてハンカチフ織工を傳習し居るさ云ふ、目下生徒百三十名なりさ云ふ、而して其製品は海外へ輸出する由。

◎當縣師範學校女子部　は去月廿八日地久節の祝席を開き、同部生徒の手料理の饗應ありたりさ云ふ。

◎身草裁縫私塾　に於ては去月廿八日地久節を祝し、演說會を開かれたりさ云ふ。

◎當縣師範學校の服制　同校女生徒の服制は洋服を廢し私服を採用せらるゝさ云ふ。

●大阪通信

◎梅花女學校の地久節祝賀　同校に於ては去月廿八日謹で　皇后陛下の地久節の祝賀を擧げられぬ、當日は種々の唱歌音曲を奏し最さ靜粛に閉會せられぬ、

◎梅花女學校の興文會　去月廿日午後一時より第廿六回興文會を同校講堂に於て開會せられぬ、折惡敷當日は雨天なりし爲め來客僅少なりしかど、內外の教員及び諸教會の牧師等參會せられ、始め讃美歌百三十二番を唱し、龜山牧師の祈禱を以て開會せられ、次に本科四年生の邦文和歌並に本科一年生英語諳誦唐文詩の吟詠及び對話等あり、就中參觀者の注視に觸れたるは、幼年豫科生の無邪氣なる狂言なりさす、畢りに金森通倫氏の演說ありて此會を閉會せられぬ。

●三重縣通信

◎女教師の轉職　本縣尋常師範學校付屬小學校裁縫教師長瓦イト子は、こたび同職を辭して四日市なる三重紡績會社の工女監督の囑托に應じて、去る三日津發の汽車にて出發せしにより、同校職員及高等女生徒一同は何れも停車場まで見送りしさなん、

◎女學同窓會　舊三重女學校及舊養正學舍卒業生によりて組織せる女學同窓會は久しき間休會致し居りしが、去る十六日午後その例會を津市女學校に開きぬ來會者多く非常の盛會なりし、

◎津市女學校の裁縫　同校は生徒の手になりし、裁縫物を至極安價にて一般公衆に賣却し居るが、賣口甚だ宜きさのとなり殊に靴下は最も評判ありし、

◎津市女學校及津市幼稚園　以上共にこれまでは月謝の高價なりしのみならず一種の貴族的の弊風瀰漫せしをもて、通學する女生は高等官吏の令孃に非ずんば富豪の姉妹なるを以て一般士女の就學するもの少かりしが、こたび大に規則を改正し、從來の弊風を一洗せしを以て、幾分か以前よりは平民的さなり、一般士女の就學するもの增加せりさ喜ばしき次第にこそ、

◎津市女學校の養蠶　嘗て記せし如く同校にて飼育せし蠶兒によりて得たる繭は何れも上出來なり、

◎賞金下賜　本月六日成川知事より一志郡波瀨村淸水しゆに金三圓さ別紙書面さを添へて同人に下賜せり、

三重縣一志郡波瀨村淸水米藏妻しゆう

資性溫順舅姑に仕へて孝を盡し夫を援けて家政を整へ嘗て舅の病に罹るや看病周到十餘年に涉り終始一日の如し其行爲誠に奇特さす爲其賞金三圓下賜候事

明治二十六年六月六日　　三重縣知事從四位勳四等　成川尙義

◎養正同窓會女子部　同會は會員後藤政江女史がみまかりしをもて追悼の資金さして目下義金徵集中の由、

◎津市には婦人の夜行少し　參宮鉄道工事のために工夫の入り込むと多きを以て、良家の令孃細君にて每夜渠等惡漢に辱めらるゝもの有るが故に婦人は何れも恐怖して夜行するものいさ少し嘆すべきことゝ云ふべし、

◎姦夫婦私兒入籍方　に就ていぬる五月二十九日付を以て本縣知事より何者四日市町長に指令したる要領は、姦夫婦の間に擧げたる私生兒は母在籍の戸籍に編入し、其父母已に公然結婚し居るさきは公生兒に引き直し方を出願すべしさの由、

◎醜樓主人の請願　久居旅籠町の醜樓總代近藤某は昨年成川知事を訪ひ、藝娼妓の實情を物語りて妊娠又は重病にて營業をなさざるさきは該賦金免除せられたしさの請願をなしたるとあるも、其後何等の沙汰なきにより如何になりしやを尋問せんがため、去る十三日本縣廳に出頭し縣屬に面會したるが該件は目下取調中なりさの事により、尙事情縷々陳述して退廳しぬ、

◎四日市監獄支署　の女囚は僅に一名さは客月末の取調、

◎醜業婦　書くも汚はしきことなるが客月末松坂の取調によるに川井、愛宕の兩惡所の醜業婦は百五十四人にして、醜業樓は十九軒、關町は三十五名の醜業婦にして六戸の醜業樓あり、

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

女報

淡海子編

●日本赤十字社第七回總會　去十七日公園元博覽會場竹の臺に開き、皇后陛下は行啓あらせ玉ふ御豫定なりしが、一昨夜來御風氣にて御臨場あらせ玉はざりし午前八時頃より小松宮總裁殿下同妃殿下、同若宮殿下、華頂宮郁子殿下、閑院宮妃殿下を始め奉り佐野社長、花房副社長、橋本病院長、石黑監督、平山、長崎、員松平(信正)、大給、高崎等の各幹事、毛利、鍋島、前田の各貴夫人令孃其他各社無慮三千餘名何れも赤十字社の徽章を襟邊に懸けて續々參集し、　陛下臨御の式を終り總裁宮殿下式場に成らせらる、此時佐野社長起て皇后陛下御臨場御見合の趣を述べ、次に小松宮總裁殿下御起立ありて一昨夜參内、皇后陛下に奉謁して承はりし御令詞を御聲高く朗讀あらせらる

皇后陛下御令詞

本日赤十字社第七回の總會に臨み各員を見るをよろこぶ尙將來本社の事業盛大ならんことを望む

右畢て社長の報告あり、夫より總裁の宮殿下より有功章及特別社員章を授與せられ、次に小松宮妃殿下より看護法修業證を會員に授與せらる次に篤志看護婦人會幹事長小松宮妃殿下は看護法修業證を會員に授與せられ、次に社長は右篤志看護婦人會に向て奬勵の演説をなし、是にて總會を終れり夫より社長の先導にて、總裁宮殿下及び妃殿下は假設の天幕病院及び瀛車病院裝置幷に戰時一病院準備品陳列所等を御觀覽あり、續て諸員一同之を一覽して散會したり、當日殊に編者の注目に觸れたるものは五十餘名の看護婦なりき、各白衣に白帽を冠し左襟に赤十字社の印を點付し、甲斐〴〵しく式場に周旋せり、五十餘の看護婦何れも皆謹肅にして且つ溫和の風を帶び、平素同社が養成する所の一斑を觀るに足る。

●東京看護婦會社　此會社は今日に起りたる者に非ず實に一昨年始めて創立せられて、今は神田猿樂町十一番地に其本社あり、本鄕區芝區橫濱市とに其派出所あり、二十餘名の看護婦醫家及び病家の招きに應じて直ちに出張し懇篤に看護する由なり、曾て第一醫院に在り看護婦總取締を爲したる鈴木雅氏其社長たりと（都新聞）

●日本赤十字社看護婦生徒　日本赤十字社に於て第六回召募の看護婦生徒志願者中今回試驗合格者の内八名(内一名は愛媛支部撰出)を採用し、本月十六日より入學せしめ又第三回生徒九名は今回全期の課程を卒業し、同十六日より病院に於て實務に服せしむることとなせり、(婦人衞生雜誌)

●フエリス和英女學校の文學會　同會は去る十六日の夜第二回を開會せらる、當日は京濱各女學校教師生徒の參觀ありて頗る盛會にてありしと云ふ。

●西班牙皇室の内訌　西班牙國は目下財政困難、植民地騷動、無政府黨跋扈等の爲め頗る危機に迫り居ることは夙に世人の知る所なるが、今亦皇室に一大内訌を生じ殆んど國家の秩序を紊さんとする事こそ起りけれ、茲に其一端を記さんに同國の舊女皇にして今帝の祖母に當らせらる、ブールボン家御出生のイサベラ第二世は、現今御保養の爲め佛京巴里に御遊居在らせらるゝ事なるが、如何に尊き御身にても一二の癖は免かれざるものと見え、齡既に六十三に渡らせられど尙ほ數多の少年を寵し給ひ、時々醜聞の起ることあるより心ある侍從は折に觸れ諫め奉る事も屢々なれど更に用ひさせ給へる氣色もなく、就中其の寵遇を辱なうする少年の一人に匈牙利生產の美男あり、此者最も陛下の御心に適ひ獨り權威を恣まにせしが、此程ユーラリー内親王(國賓としてシカゴ大博覽會に臨まれし方)に言ふべからざる恥辱を與へたることありしより、平生同人を疾視せし皇族の人々は大に其の不敬を詰り直にイサベラ陛下に迫りて是非とも同人を放逐せらるべし、否らざれば遂に皇室の威嚴を墜し國家を統御する能はざるに至るべしとて、懇々理を盡して御斷念の事を求めたれども尙ほ彼是れ巧言を駢べて用ひ給はざるより、遂に舊女皇派と皇族派との間に一大激論を生じ、今に悶着絕えざるのみか日に其の論聲を高めて、醜聞を世に流すが如き傾あるに至りたり云々と同國よりの特報に見ゆ(國會)

●米人醜業犯の求刑　多年橫濱に在留する山手居留地百二十二番館米人、コープラントは治外法權を奇貨として數年前より我國細民の少女を驅り集めて外人に淫賣せしめ居り、近頃益々甚だしく公許の妓樓も三舍を避くるほどなれば、橫濱居留地警察署山手分署にては豫て注目し居りたる折柄、先頃現行犯にて同館の醜業婦七名を捕へ、取調べの末孰れも前非を悔ひ伏罪したれば拘留三日より十日迄の間に於て處分せしが、尙ほ雇主たる米人コープラントに對し告發せしに付き、橫濱地方裁判所檢事正は橫濱駐在米國總領事テロットソン氏に求刑したれば、同領事長は來る廿一日公判を開く事に決定せし由、聞く處によれば日本の法律は密賣淫違警罪なるも、米國の法律にては五年以下の禁錮に當たる輕罪犯なりと云ふ、

●稀なる少女　今より四年以前、宮城縣牡鹿郡石卷町字新田の醫師遠藤隆庵の長女に、ひさしとて、其時やう〳〵十三になれるがあり、天資頴敏くして、いたく學のわざを好みけるが、是よりさき、同地の高等小學校に入りて、よくいそしみ勉め、夙に秀逸の聞たかゝりき。ひさし常常、小使にとて貰ひ得たる金錢あれば、涙に費さずして、必ず之を貯へおき、後には驛遞局に預けけるが、遂には積もり〳〵て、金十圓ばかりになりにけり。然るに、ひさしが高等二年級に上りけるとき、重き疾病にかゝりて、あつく療養を加へしかども、更に醫藥のしるしなく、殆ど危くなりけるに、自らも其の生きがたきを知りけるにや、妾はとても回復の望なければ、兼て學資の補にもと貯へおける金も、今ははや身に要なきものとなりぬ、せめては學校に寄贈し、學の友垣の奬學金にもなし給はれと遺言し、いたましいかな、その年五月、ふりふきる卯の花くだしに誘はるゝ身となりて、遂にもろくぞ失せにける、こを眼前見聞きたるたらちねの心の中やいかならん、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

思ひやるだにあはれなり。されば父隆庵ぬしは、其の遺言にしたがひ、生徒奬學金として、石卷小學校に寄附しければ、同縣知事、いたく之を感賞し、ことし、木盃一箇を追賜せられたりとぞ。嗚呼高潔なるかな、ひとしが行爲。（女鑑）

●英國千八百九十二年大學卒業女子の數　千八百九十二年中大不列顚及愛蘭の各大學に於て、學位を授けられたる女子の總數は、三百人以上に達せり、因に云ふエヂンバラー大學及セント、アンドリュース大學に於ては、男女の學生同席にて講義を聽き、グラスゴー大學に於ては、女學生のため特に講義室の設備あり、（官報）

●産婆卒業試驗　島根縣出雲國楯縫郡平田町共立平田産婆講習所に於て本月三日卒業試驗を擧行せしに簡易科生五人孰も及第せり、（官報）

●女教員の同盟缺勤　高知縣土佐郡高等小學校の女教員八名は頃日同盟缺勤す、爲めに休業する事二日に及べり、其の理非は姑く置き其の行ひや頗る歎すべき無しとせず、（東京日日）

●板倉子爵夫人頓智　去日の夜草木も眠る丑滿つ頃湯島天神町の板倉子爵方竈所より出火し、近隣の或者見附けて騒ぎ立てしが、子爵夫人は寢衣の儘にて銅盥を提げ出で、カン／＼カン／＼と敲きしかば近邊の者ども大勢寄りつどひて何の造作もなく消止めたりと、（國民新聞）

●婦女誘拐者　在釜山港鷄肉商柴田榮吉方雇女增田アサ外二名（共に大阪出生）は此程或る惡漢に欺かれ浦鹽斯德港なる賣淫窩主村田ヨシ方に連れ込まれ、無理に醜業を營ましめられしより本人等は痛く怒り、大阪なる父兄の許に密報し頻りに救助を求めたるにより、仝處警察署は外務省に具申し彼是取調の末遂に右アサ等三人は、去る五月十八日無事大阪に歸着するとを得たり、然るに右誘拐者は長崎縣下西彼杵郡深堀村の無頼漢松本廣太郎の所業なりし事相露はれ、在浦港の我が貿易事務官に引致の上仝港放逐の申渡を受け、去月三十日の薩摩丸便にて長崎港に送還せられたるよし、（中央）

●伊佛の養蠶　十二日到達の電報に依れば本年伊太利の養蠶は平年より三割方の增加、佛國は一割五分の增加にて、新繭は最初の取引相塲より一割五分の直安となりたり云々、

●シカゴに於ける日本婦人　萬國博覽會の名を聞て種々の企を思ひ立つ者ありけり、撰抜の歌妓を連れ行き日本美人の見本を示すと共に優なる日本踊に一ト儲せんとするもあれば、或は陶器の彩色女工を率ゐ行かんとし、或は機織女を雇ふて日本機業の實際を見せんとするもあり、中には隨分面白き趣向もなきに非ざりしかども米國行の日本婦人は兎角に評判宜しからず、萬國博覽の塲所柄に若しも恥を曝す樣のことありてはとの懸念深く、政府の注意も嚴重なるよりシカゴ市中一人の日本婦人を見ず、喫茶店の給仕にさへ種々心勞の末終に裕着ける男が差控へることゝなりしが、近信に依れば此程同店にて茶の手傳を爲す一箇の婦人あり、年頃二十五六にして縮緬の衣裳ゆたかに日本婦人の風姿を見せ來客の眼を惹く由なるが、右は表向手傳の爲め一時人の妻女を雇ひたるものなりと、此外に工藝館内關西貿易會社の出品たる人形へ着付の爲め赴ける西京人形屋の娘とかにて十七八の婦人は、目下賣店に雇はれ居り近來シカゴに都合二名の日本婦人あり、日本男子とへ珍らしがらるゝ土地柄ゆゑジャパニース、レデーと取囃し眼ひき袖ひき人の見るに不幸にも兩人共日本美人の雛形と云ふ可き器量にはあらずとて、同地在留の本邦人中には面白からざる感じを抱き居る者多しと云へり（時事）

●師範學校女子部の養蠶　山梨尋常師範學校女子部の養蠶は既に上簇し了したるが本年は好結果を得たる由、

●高等女學校設立の計畫　石川縣金澤市には金澤女學校あれども、其は外教宣教師の手に成り宗教的教育の臭味を帶び純普の女子教育をなす校舍なきを憂へ、縣費を以て高等女學校を設置せんとて教育熱心家は此頃協議を凝し居れり、尤も同時に尋常師範學校女子部を廢して、その費用を女學校に移し女教員にも併せて養成するの趣向なり、（富山日報）

●山陽婦人大祈禱會　日本基督教會第四回山陽婦人祈禱會を、客月三日吳和庄町會堂に於て開けり、午前九時開會、司會者千頭濱子の開會の主意、池田君子の祈禱あり、次に各地教會の報告及來會者の勸話あり、吳教會牧師太田留助氏、家庭に於ける婦人の勢力と云ふ旨意を以て婦人信徒の爲め勸められたり、翌四日岩田千世子宅に於て會議を開き、山陽婦人將來の働きにつき及び第五回婦人祈禱會開會地等の事を議し終りて親睦會を開けり、山陽婦人の働き前會に比すれば大に進步せし者の如く來會者四十四名各々喜びに充ちて散會せり。（福音新報）

●少女園の德行　長野縣南佐久郡海瀨村柳澤杢之丞の二女に園なる者あり、年僅に十二出てゝ同郡平賀村鈴木巳之助方に仕へ、小供の傅となり居けるが常に寡言沈着にして能く主家に事ふるのみか、小供を劬りけるにぞ主家に於ても一方ならず之を寵愛しけるとなん然るに此程の事なりとか園は晝過ぎ鍋釜其他のものを洗はん爲め庭に出てけるに、井の釣瓶竿の動き出だし泣聲さへも聞へしかば、いと不思議に思ひて井戸に馳け付け見れば這は抑も如何に知章にあらぬ一女兒が、あわれ水底に陷りて釣瓶竿に打ち縋り頻りに救助を求めつゝ泣き叫び居しにぞ、主人に知らせて救はんとせしかども萬一其間に沈む事もありなば回復し難き事ぞと思ひければ、幼き女の微力ながらも一生懸命に釣瓶を引揚げ辛ふじて女兒を助たり、此女兒は近隣のお繁（七歳）なるものにて、井戸卷石なる「雪の下」なるものを取らまくして誤り陷りたる事ゆへ母の叱りを畏れて家に歸らざりければ、園は其女兒を家に送り届け斯くて後鍋釜其他の洗ものを濟して主家に戻り、少しも其の出來事を人に語らざりしかば、知るものとてはなかりける數日を經てお繁の母は

主家に來りて闔に物を贈り厚く禮を述べしより、主家にても始めて之を知り隣郷相傳へて其德行を感じ敢へぬはなしとぞ實に近時得難き少女の善行と云まはくのみ(大日本教育新聞)

●婦女、北征艇隊を慕ふ　仙臺市片平町大觀樓の酌婦鈴木さよ(二十三)高橋えん(十九)の兩名は郡司大尉一行の義擧を贊成しせめて千島に渡り炊事の手助をもなさすと兩名相謀り密かに旅費を拵へ北行の途に就きたりと云ふ、

●ウエスト孃追悼紀念演說　九日午後七時半より海岸教會堂に於て開かれたり。曇天のこととて來聽如何あらんかと氣遣ひたるに、各女學校の生徒を初め、聽衆滿場に及び、禁酒會々長林翁氏司會者となり、幹事二宮安次氏の祈禱、幹事伊東恭三氏の開會趣意演述ありて、根木正氏先づ登壇し、教會の目的は世を救ふにあり、世を救ふはウエスト孃の如き獻身の働きなかるべからず、其の獻身の働きをなすウエスト孃を生み出したる米國は蓋し生み出すべき素養ありし故なり、日本も亦二三百年後ウエストを生み出さんと欲せば、銘々その根本を固くすべしと演べられたり。次に安藤太郎氏は云く、紀念は日本人の特性にして、善きことなり。今ウエスト孃を紀念せんとするに當りては、堂宇を建つべからず、位牌を作る心要なし。長く同氏が獻身的の働きを忘れずして、其意を次ぐにありと。次に星野光多氏は云く、禁酒事業は永遠を期すべきことにして、決して急迫なるべからずと。相原英賢氏之に次で演說せらるべき筈なりしが時間なくして止めり。回顧すればウエスト孃上陸の時初めて演說したるも此の會堂なり、永眠の後ちその遺骸を二三日保管したるも此の會堂なり、而して紀念會を第一に開きしも亦此の會堂なり。海岸教會は長くウエスト孃を忘れざるべし

●小供の接吻　兩親若くは他の人が愛らしき子供を抱きながら愛情の餘り其小供の口を接吻する事あり、然るに醫學的實驗に依れば之が爲め往々其口より肺病若くは梅毒を小供に傳染せしむる事ありと云へり、これ實に恐るべき次第ならずや兩親たる者猥りに其愛兒を人手に渡す勿れ、殊に下等社會の人に渡す勿れ夫に付ても乳母の撰擇は甚だ大切なりと知るへし(婦人衛生雜誌)

●養育院委員長の改撰　東京市養育院にては委員長岡子爵辭職に付、改撰を行ひたるに澁澤榮一氏當撰し就任を承諾したる旨去十三日其筋へ屆出たりと

●大日本婦人教育會　去十七日午後一時半より内山下町鹿鳴館に於て開會せり、當日出席者は鍋島侯爵夫人、毛利公爵夫人を初め其他會員二百餘名にて、豫定の講談ありし後、午後三時頃豫て招待せるサンミウリスの二氏は、志方順太郎氏に導かれて臨會し、志方氏よりトラック島に關する談話をなし午後五時頃散會せり、

●慈惠女學院附屬看護婦養成所　大阪市慈惠女學院にては孤兒の爲め一層の便利を計り、十五歲以上にして猶貰ひ人の無き女子に限り看護婦となし、一は自分等が受けたる慈惠の萬分に酬はしめんが爲に女學院附屬看護婦養成所を設け、大に孤兒等が將來の方向に就て補助せんとて奔走中の處、總裁伏見宮殿下にも其擧を賛助せられ、追々來る七日中旬より同養成所を設立する事に決定し目下看護に必用なる機械器具の類を整へ居り、又同所設立の上は醫師數名を聘し教授を囑托するといふ(大阪毎日)

●津市女學校の養蠶　曾て記せる如く津市丸之内なる津市女學校にて飼育せる蠶兒は、目下上簇中の由なるが何れも好結果を得るの見込ありといふ、

●女生徒の自炊　山口縣厚狹郡船木村縫裁女學校にては五月一日より生徒をして自炊せしめ居るといふ、其目的は生徒に家政の何物たるの一端を知らしめ、併て學資の幾分を減ぜしめんとするにある由にて、近來生徒增加の傾向あるも全く之れが爲めなりと、

●學校燒失　去る十日の夜二時頃伊豫松山の私立女學校炊事場より出火し全校燒失して老婆一名燒死せり、

●高等女學校教育懇談會　女子高等師範學校附屬高等女學校に於ては、此頃生徒の家庭教育上直接に關係あるものを招きて、教育懇談會を開き校長細川潤二郎氏は家庭教育に就きて懇切なる注意をなし、それより職員をして授業巡覽の案内をなさしめ終りて、受持擔任教師はその級の保證人父兄と膝を交へて懇談をなしたりと、(教育報知)

●女子の武術家賞を受く　先頃本邦に渡來せられたる英國貴族某氏はいたく武術を好まるゝよしにて、去月初旬宮内省に請ひ皇宮警察の武技を一覽せられしが、其節奥田たま子の薙刀を演ずるを見て深く其技の妙に感じ、手づから金側時計一個を賞與せられしと(大日本婦人教育會雜誌)

●晴れの衣服は日本の織物　過日來米國大博覽會見物に赴く途次、東洋諸國を漫遊せし英國の貴孃は何れも同國女學校の得業生にて、得意の褒美に世界漫遊の資を父兄より貰ひ婦人連のみ一團體となりて長途の征路に登りしものなるが、我邦に滯在中頗る其風景と文物を愛し、米國に乘込む時の晴れの衣服には皆な日本製の衣裳を着けんと申合せ、上州產の最上琥珀地に浮出しの模樣あるものを買ひそれにて一同美事なる新衣を裁したり、又携帶品等も盡く日本の物を聚め絹手巾扇子等も一山買入れたりといふ、

●ビ公と兩夫人　ビーコンスフヒルド公ヒュゲンデン邸内にありし一日組服を着し背莚綠樹の間を逍遙す、時にグラッドストーン信仰の婦人二人相携へて庭の門内に入り來る、婦人はビ公を以て園丁なりと思ひ、公に告げて曰く近頃御無心ながら庭内各所を案内せられたし、ビ公此は面白しと低頭平身彼等の指揮に從ひ散步し、婦人頻りに主人なるビーコンスフヒールド公の擧動を問ふ、ビ公虛實を交へて之れに答ふる中、一人の婦人曰く足下は此邸内の老畜生の前に我等を按内し得るや、ビ公聲に應じて曰く兩貴夫人、其老畜生は現在貴夫人を按内する名譽を擔ふ拙者にて候、

●婦人の流行熱　ニウヨークトリビユン新聞は曰、エーなる令孃は今回巴里に新形八十四ヤードの面覆を注文したり、此孃は二三ヶ月内に十九種類の帽子を代ふるならん、

●美音家は牛肉を喰ふ可からず　近來學者仲間の說に依れば淡白なる食物野菜等を常食とする地方には美音家を出だし、獸肉を多量に嗜む場所には音曲の大家なしと、されば美音を以て世に名を揚げんとする人々は餘り「ビフテキ」を食すべからず、尙ほ魚肉も同じく音聲を害すと云ふ現に「ナーブル」「テエーヌ」及「ノルザエージュ」の沿岸に在る都市には美音の人更にあることなし、愛蘭土の農家の女子は美聲を以て有名なれども牛肉を食する村に移れば忽ち其驚聲を失ふと云ふ、此說にして眞なれば音曲家は牛肉を食はざる樣注意せざる可からず、我邦は菜食の行はるゝ國柄なれば美音に富みたる音曲の大家を出すには適當の場所と謂ふべきか、(三件郵便報知)

孤兒之友

畜勵子編

博愛なる兄姉に訴ふ、

熟々按ずるに我最下層の國民の多數は、額に汗を絞りて其得る所一日の役勞賃價は、其日一家數口を糊すに甚だ辛苦なり、況や彼の人々が子女の教育をや、若し不幸にして其夫の疾病に罹り、或は死亡の事あらば其遺族は果して如何あるべき、親子流離迯に迷ひ、或は盜兒となり乞食となり、或は辛き浮世の渦に卷かれて女兒は心なき廓樓に賣られ、世の輕兒に玩弄せらるゝ者抑も幾千ぞや、不肖心をひそめて玆に注がば、價値なき身を忘れて一生を擧て是等の爲めに與えて尙足らざるに感ず、誠意眞心僅か信ずる所に因り以て、我分限を孤兒貧兒盲廢者の爲に盡して止むのみ。

曉星園は世の最下層なる無告の孤兒不具盲者等、世上に最とも不幸なる者を集めて之を教育し、或は彼等に自活獨立の精神を養成し且つ之を教養し、專ら實業的教育を以て任ずるものなり、當園開設玆に三年此間種々なる試練困難の中に耐え忍び、昨年晩春當那須野原開墾地に移住し、豫て宿望せし農業の端緒を爰に開かれたり、當那須野原の開墾地たるや實に將來多望にして、殊に蠶業の如きは目的の重要なる一にして既に數丁の開墾地と多少の桑園を與えられ、猶且昨冬より木綿縮織の工場を設け、女兒は蠶業と綿織に勉め以て獨立の一助ならんと欲す、然れども創業多端の際況や多數の人員を移せば農事百般の準備に付資金の欠乏を告げ、目前に收利を見るも差當り三種の家屋の必要にせまり、今日の狹隘不便なる家屋を以て到底志望を果す能はず、故に農所病室一個、職工場一個、理髮店一個、等の內一個は既に建築に取り掛りたるも資金に不足を訴え、其目的を達し難く、深く素志に反くと雖ども江湖博愛なる兄姉の同情を仰ぎて、今回左の方法に依て建築費金五百圓の寄附を仰ぎて當園の根基を固めんとす、』

願く博愛の兄姉に同情を乞ひ　一人に付金拾錢の寄附を仰ぎ　五千人にして　金五百圓の定額に滿つ

右の如く一回限りの義捐一人に金拾錢とし成べく普く寄附を仰ぎて豫望の建築の竣功すれば、玆に始めて充分農事工業に從事し將來自營獨立の道相立、我等の幸之に加ふる者なし、庶幾は我微衷を憐み義捐を寄せ給はなんとを

栃木縣那須郡三嶋村三嶋開墾地
曉星園　本郷定治郎

寄附金は御撰寄御便宜により左の所へ御拂込相成度候

東京本郷區東竹町卅四番地　警醒社
同　京橋區日吉町四番地　國民新聞社
同　下谷練塀町九番地共同中牛馬會社內　秋元尙諄
同　麴町區下六番町六番地女學雜誌社內　孤兒の友

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

花の屋胡蝶大人著

家事經濟の要務

素人料理 **年中惣菜の仕方** 全

細君日用の錦囊

實價貳拾五錢　郵稅六錢

夫れ割烹は女學の一科目にして實際に必用の業也而して年中三百六十日毎日惣菜の仕方に困るは細君の常也此書は儉約を主として四季の惣菜と爲すべきものを多く集め間〻客を饗する料理を加へ之を汁類、煮物、したし物、あへ物、炙物、生酢、鍋物、天麩羅、漬物、飯類の十類に分ち類毎に又之を春夏秋冬及び四季通用の五部に分ちて一一其切方よりしたぢの加減煮方の手順に至るまで詳細に記載し之を總かな附にし加ふるに圖解を以てして極めて深切に著述したる新機軸の書也苟も世帶を持つ者は速に一本を購ひ常に座右に置けば啻に參觀の便利のみならず家政上稗益あること亦小少に非ざる也

(附言)嫁入せる女子には稽古がてら此書に就きて實驗せしむれば後日の爲めに大に益あるべし

發行所　名古屋本町通鐵砲町二丁目　**靜觀堂**

賣捌所　●東京○本石町。上田屋○神田表神保町。中西屋○通一丁目。大倉○南傳馬町。目黑○南傳馬町。青木○通四丁目。金櫻堂○通四丁目。東雲堂○大傳馬町。柏屋○淺草三好町。大川屋○本鄕二丁目。畊文堂○芝宇田川町。須富●大阪博勞町。中川●横濱松ヶ枝町。弘集堂●函館。魁文社●熊本。長崎●佐賀。河內●鹿兒島。吉田●甲府。柳正堂●仙臺。高藤●山形。八文字屋●秋田。本間●千葉。多田屋●水戶。川又●沼津。蘭契社●靜岡。廣瀨●松本。水琴堂

○**女學雜誌**明治十八年發從二號至三百五十八號右所藏の雜誌賣却致度候間御望の方は芝區巴町卅六番地松浦へ至急御申越被下度候

星野愼之輔君著

昆蟲 植物 金石 **採集法**

正價金八錢　郵稅金二錢

昆蟲界
昆蟲分類
昆蟲變態
採集地
採集注意
採集器
貯蟲法
刺針法
昆蟲運搬法
幼虫類飼育法

植物界
葉さは何
花さは何
枝さは何
植物南
採集すべき部分
採集氣節
採集器具
乾腊法
標本製造

金石界
金石分類名稱
金石の現出
識別鑑定法
岩石の現出
土性の現出
土性分類名稱
土性分析法
採集器具
採集法方

麗かなる新緑の野外に杖を曳きし時、諸子は可憐なる蛺蝶を見て何かに感ぜしか、涼しき樹陰の溪流に沿び遠足せし時、諸兄は美麗なる昆蟲を觀て何かに感ぜしか。之を採りて直に納め、坐右に博物館を開きて友を延き、一は天の美を樂み、一は研究の好材料させんさするならん之を以て散策一層の樂み深し、多愛なる諸友よ予が採集を講ずるは、蓋し割愛耳云々之れ著者の言なり

藝者と手掛

正價金三錢　郵稅金二錢

右は、岡山孤兒院の創立者にして、石井十治氏の助け讀たる、炭谷小梅ぬしの筆記せられしものなり。言々、通俗にして、一々實際を穿ち、着々急所を刺して、毫も遺憾なからしむ。宜なる哉、此人の傳道によりて、斷然、妾を止めたる人少なからぬをや。凡そ、此の雜誌を讀まんほどの人にて、此開書を寄せらる可き輩は、固く信ず、決して一人もあらじ。左れど、藝妾にすゝめて其業を止めしめんさ心掛る人は、極めて澤なるべし。然るに、かゝる人は思ひ高潔に過て、反つて藝妾の情を知らず、其訓戒兎角に要緊を得ざるをあるもの也。左れば、かゝる人にして、若し此の一文章を讀まば、大ひに發明する所あらん。もし亦た此を讀みて聞かすをに利用せば、更に可らんさて、揭ぐ。女學雜誌に揭載せるもの、今回一册子さして同好の御求めに應ず

發行所　東京市麴町區下六番町六番地　**女學雜誌社**

隔週發行 評論

第六號目録

時事

●學制改革案●當世逐客論●蘇老泉奇傑を論ず●賓客優致の門●將來の二大機●寺島宗則伯●殉理獻身の大勇者●傳染病研究所の論爭●何人斬と云ふ事●拓植主動の大精神●北海の表熱誠の團結●千島の宗敎●多情者の事業●第七回福音同盟會の結果●白波散熙

講壇

戀愛の德を想ふ（女學子）

文學評論

熱意（透谷）

〔文界時事〕 腓立比物語を讀む（透谷）●同志社文學の附錄●韻文諸家●三籟第三號

時論

〔片々燦々〕 尊王新論●物價騰貴、金融必迫●魯士亞及び朝鮮●森有禮氏豪放●藤田東湖の敎化力●神秘的聖理

書架

〔新架〕 民富遡言を讀む

〔文しらべ〕 脚氣病に關する書

〔逸話〕 只唯聖書一卷を熟讀す●われ寧ろ此詩の作者たらん●詩神を家族團欒の間に招く

茂然草

獨嘯偶錄（中夜警醒）無名子

亡き幼兒（韻文）紫苑山人

史傳

日本外史及賴山陽（史傳子）

雜錄

自愛と社會、個人と國家（基督敎社會學上の觀察）●全世界聾啞院統計表●北海道諸雇人賃銀●華族身代推算の一法

海外風信

世界博覽會と日曜日●獨逸政治界の波瀾●法王と勞働問題●瑞典と諸威との不和●雜事（ケラット汗の殘虐○瑞典王の文事○キルベルト嶋語の聖書○日本の家庭○ルナン未亡人の鬪牛禁止）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

久津見息忠君著

耶蘇教衝突論

○全壹册

定價金拾六錢
郵稅金貳錢

右ハ、多年名ヲ潜メテ、専哲學ニ研究シタル、蕨村居士、久津見息忠氏ノ著ス所。井上博士ノ説ニ對シテ、教育ト耶蘇教トノ關係、耶蘇教ノ利害等ヲ論シタル者。所見卓拔、條理明晰。居士ガ、懷抱セル理想ヲ詳悉シテ、痛快ナル斷定ヲ下シタリ。宗教家、教育家ハ、必一讀セザルベカラズ

發賣所　女學雜誌社
東京麹町區下六番町六番地

大取次　◉警醒社　◉東京堂　◉東海堂　◉寶山堂

醫學士岡本武次先生實驗証明

補血強壯

サフラン酒

藥價
小瓶入　金二拾錢
中瓶入　金四拾錢
大瓶入　金六拾錢

特効
血の道神經病
産前さん後
子宮病
貧血病
胃病腸病

無効返金

●血の道 ●きふんふさぎ●づゝう●めまい●かたせのこり ●神經病
●産前 ●はやりめ●小りうさん●さんくせあしきもの ●さん後
●子宮病 ●さしこみ●ふめぐり●しらち●ながち
●貧血病 ●ちふそくなるもの●いわうべう●はいべう●をさろいたろもの
●胃病 ●ゐとやく●りういん●ものあたり●コレラ ●腸病

本劑は貴重の藥品數種を配伍して精製したる者にして多年患者に實驗の上百發百中の良劑なるを保證する者なり

無代 効能説明書（廿ページ）御望の方は郵券二錢送附あれば速に呈すべし

特約大販賣所

東京兩國村松町　岩木涙長
仝兩國廣小路　大木口兵
仝元大阪町　高澤與兵
仝小網町四丁目　黒置利金
仝瀬戸物町　玉川榮次
仝上槇木町　安澤Ⓐ藥
仝銀座三丁目　松本伊兵
仝本町四丁目　松々木商
仝銀座一丁目　佐田吟
仝銀座二丁目　岸谷萬次
仝本石町一丁目　森尾賛
仝馬喰町二丁目　平田治兵
仝池の端仲町　守木龜
仝尾上町四丁目　鈴見亭太
横濱賑町一丁目藥店　里

其他取次　各地の藥店に有之候也

東京々橋區大鋸町十一番地
製劑本家　山本博信堂

代理店　東京兩國藥研堀一番地　高橋藥館

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

裏錦

第八號（六月十五日發行）要目

●そらだきのかをり並評語　トウストイ著
●おひたちの記　林丘子譯
幼年篇（第二回わが母 第三回わが父）
●僞皇子（戯曲）　プシキン著　殘月庵譯
大寺院方丈の塲、宮殿の塲
●詩人の天地　殘月
●歌の種類（折句歌、沓冠歌、和歌連歌、狂句並發句）　さくらどの翁
●摸型人體　しら菊
●古河默阿彌の傳を讀む　五子
●本朝列女傳題詩（狹穗姬）　洛泗五子
●四季の美人　賀古殘夢

定價 一冊六錢市外郵稅一冊に付一錢

發行所 東京神田區駿河台北甲賀町十三番地 尚絅社

（速記彙報）

正價 一冊八錢 ● 十二冊前金九十錢 ● 全國無遞送料

速記彙報第五十二冊出づ、築地活版所長曲田成君の**活字**に就ての話は明治五六年頃の活字世界の有樣を讀者の眼前に紹介せり、土耳其より歸朝せられたる山田寅次郎君の**土耳其風呂**は一讀土耳其風呂に浴するの快を覺ふべし、**隅田川浪五郎**翁の手品師は慶應二年横濱出帆より桑港着までの船中の奇談を孕めり其他**武藏西北部**方の言は讀者を驚かすべく、速記に關する論說雜報は速記者及速記修業者を益すべし

東京神田區裏神保町一番地
速記彙報發行所

三籟

第二號要目

俗物論　松村介石
白露（韻文）　殘花
巨人談（承前）　內田不知庵
偶思錄　大西祝
孔子論（承前）　市谷隱士
ゴールドスミス（承前）　戸川安宅
漫筆　百合園主人

其他淸籟、爛熳、喝捧の欄光彩燦爛として三籟に和するの觀あり

定價 一冊六錢半年前金三十五錢郵稅五厘

發賣所 東京々橋區出雲町一 警醒社書店

此虫除香水防虫液は諸の毒虫を撲滅させるは勿論兩便所其他の不潔場へまきちらす時は香氣馥郁として忽ちに悪臭を防ぐ衛生上寸時も欠くべからざる良品なり○浅草公園なる料理店万梅○雷神門前喜千樓茅場町宮松亭木挽町万安赤坂の林屋其他各所の料理店待合席亭杯の總て多數人士の集合する家々にて殊の外賞用せられ随而販路日月に擴く相成加ふるに追々必用の時機に迎ひ候に付此際一層原料に注意を加へ製造仕御禮の爲め今回格別廉價を以て賣出し仕候間倍舊の御愛顧を以て續々御購求御試用の上御高評の程を奉希上候

附言人躰には聊か害なきのみならず殊に○たむし○糸かせ○あせものかゆみ有るところへは筆にてぬり付れば心地よき事限なし(電話四七二番)

發賣 東京銀座 つやぶきん **佐々木玄兵衛**

各府縣下確實品販賣有名藥舗又は和洋小間物店にて賣捌仕候間御最寄にて御購求奉希上候

嚴本善治君講述

教育學講義

正價金八錢
郵税金貳錢

右は君が、明治女學校、高等科女生に口授せられたる講義中、之を筆記して、昨年七月より本年四月に至る、白表女學雜誌附錄として、續載せしものにして、先頃より之を一册子として世に公にせよと請はるゝ者あれば。謂ば君の未定稿なれど、今般廉價を以て同好諸君の求めに應せむとす、

發行所 東京麴町區下六番町六番地 **女學雜誌社**

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

星野愼之助君編

應用植物編
附録詩經植物類考

正價金四拾錢
郵税六錢
二百三十頁
クロース製本

右は君が大學々窻にありし時自から便に供せんとて編み置かれしもの、此頃某校教授上の必要より印刷せられんとするを乞ふて出版せり、之を一見するに便利なる有用植物索引書とも言ふべく、明亮なる有用植物の戸籍書とも言ふべく、簡明なる植物分類撿定書とも言ふべく、殊に凶年に食し得べきもの、藥用のもの、有毒のもの、牧草用のもの、纎維用のもの、其他種々の用に供すべきものを一々明かにして其性質形狀などを掲げ、澱粉纎維タンニン等の製法を示す、而して索引表ありて容易に之を探ぬるを得るなど親切至れり、其分類撿定表、各科植物特徴表、材木有害灌木利用表の如き、最も便を盡す。就中詩經植物類を務めて飜譯し支那の歌草詩花を明かにせし如きは文學の範圍に關する所少しとせず。要するに植物學を學ばざる者も又農家にも一本を備へて便利言ふべからざるものなり。

發行所 東京麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
發賣所 日本橋區通三丁目十四番地 丸善商社書店
賣捌所 ◉瑞穗屋◉警醒社◉東京堂◉中西屋◉有隣堂◉小林

專門 梅毒 痔疾 痳疾 子宮
百毒即治丸
右速ニ全治受合也若シ全治セサレバ藥價返却ス◉但シ診察無料
京橋銀座二丁目
東中通◉畑中堂
山本醫院
山本醫院方劑◉無効返金一週四十錢三週一圓郵税無料銀座二丁目十番地泰生藥舖販賣

○弊社出版『採集法』の廣告(近頃のものに限り)に林學士某と印刷し來りしは林學生の誤植に付右著者に誤ちを謝し併せて誤謬を訂す
女學雜誌社廣告係り

移轉
本鄉區西片町拾番地ろ二號
湯谷礎一郎

本誌代價

	前金	府外
六冊	三十五錢	三十八錢
十三冊(半年)	同 七十三錢	同 七十八錢
廿六冊(一年)	同 一圓三十錢	同 一圓四十三錢
一冊 金六錢	郵税	金五厘

廣告料及無料廣告

一行(廿七字詰) 一回 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引。
○十行以上一割引。○二十行以上二割引。○四十行同四割引。
但し不道德なる廣告は謝絶す、慈善の廣告は社議の上無代價にて引受く○特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を載する毎に右雜誌十部注文を要し以上半頁毎に十部増さと定む。

明治廿六年四月廿五日內務省許可
明治廿六年六月廿三日印刷
明治廿六年六月廿四日發行

發行兼編輯者 東京市麴町區下六番町六番地 巖本善治
印刷者 仝牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地 根岸高光
發行所 東京市麴町區下六番町六番地 女學雜誌社
印刷所 仝牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 秀英舍工塲(電話十九番)